

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部  
附属子どもケアセンター年報

第11号

2026年3月

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部  
附属子どもケアセンター

はじめに

大学附属の施設ならではの子育て支援の意義を明らかにするため、2025年10月下旬に子どもケアセンター利用者のみなさまを対象としたアンケート調査を実施しました。そして、その成果を「大学という環境が子育て支援に与える影響—子どもケアセンター利用者対象のアンケート調査の結果より—」というタイトルで『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究(教育実践記録集)第7集』(名古屋学芸大学・教職課程研究会編刊/2026年2月)に発表しました。概要を紹介したいと思います。

#### (1) 子どもケアセンターを訪れる理由

全ての回答者が「保育職員の人柄」「施設全体の清潔さ」を挙げました。他に多かった回答に、「通いやすさ」「授乳室やベビーカー置き場、駐車場などの設備面が充実していること」とともに「学生と触れ合う機会があること」がありました。

#### (2) 学生と教職員との関わり

多くの方が、ボランティア・授業・卒業研究に取り組んでいる学生や通りがかりの学生など、さまざまな状況で学生と触れ合っていることがわかりました。授業や研究に協力する形で教員と関わったことがあるというかたもいらっしゃいました。

#### (3) 肯定的・好意的に捉えていること

「子どもケアセンターが『授業』『学生の卒業研究』『教員の研究』に活用されること」「教員が子どもケアセンターの事業で講師を務めること」を全ての回答者が「おいにいいことだと思う」と捉えていました。学生の学業や教員の研究に資することや子育ての情報や知識の共有に関することは、肯定的・好意的に受け止められていることがわかりました。

アンケート調査から、子どもケアセンターの利用者、学生、教職員が相互に関わることで享受するものが大きいことが明らかになりました。利用者のみなさまが、学生の学びを支え保育者養成に貢献しているという認識をお持ちであることも読み取れました。

その通りです。利用者のみなさまのおかげで、学生は実践的に学ぶことができます。今後も、利用者のみなさまと学生・教員との関わりのなかで、子どもケアセンターならではの子育て支援を進めていきたいと思えます。ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年3月

子どもケアセンター長 加古有子







## 第1部

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部  
附属子どもケアセンター「理念と特性」



## 1. 子どもケアセンターとは

子どもケアセンターは、平成18年7月の開設当時から、地域に開放した子育て・子育ての応援活動に取り組むと同時に、これからの保育者や養護教諭、小学校教諭などの専門職を目指す学生たちが応援活動に参加し、子どもたちと触れ合い、子育て中の親の思いに触れることにより、より実践力のある人材養成の教育活動を推進してまいりました。

平成24年度から、『日進市子育て支援センター事業』を受託し、平成28年度から『子ども心理相談室』を開設しました。

地域の親子、学生、大学の教員など、多彩な立場の人が集い、互いに育ち合える、総合的な子育て支援ができる地域の子育て支援の拠点として充実を図りながら、子どもや子育て中の親の思いに寄り添い、幅広い子どもケア活動ができる人材の養成を更に推進したいと考えています。

## 2. 子どもケアセンターが目指すもの

### (1) 人材養成の拠点として

名古屋学芸大学の『実学』と『現場重視』の教育理念を具現化するため、子どもケアセンターで行う地域貢献活動に学生が積極的に参加する『体験型教育』を進め、実践的で応用力のある人材養成を目指します。

### (2) 地域貢献活動の拠点として

メディア造形・管理栄養・ヒューマンケア学部が連携し、大学がもつ専門性を地域に開放し、地域貢献活動を推進します。また、学生、大学の教員、子ども、子育て中の保護者が互いに学び合える新しい形の子育て支援拠点の充実を目指します。

### (3) 子育て支援や学生の保育実践力育成に必要な研究の拠点として

子どもケアセンターでは、大学や地域がもつ力を融合させ、未来を見通しながら、これからの子育て支援のあり方や学生の保育・教育実践力を育成するための研究の推進を目指します。

## 3. 子どもケアセンターの子育て支援・相談活動の特性

### (1) 質の高い子育て支援プログラムを提供します。

プログラム運営には、経験豊富な保育者をはじめ、名古屋学芸大学の教員が関わり、現代の子育て・子育てのニーズに即した、総合的な子育て支援活動の質的研究を進め、質の高い子育て支援事業を追求していきます。

### (2) 異年齢の子どもとの交流を通して豊かな育ちを支援します。

名古屋学芸大学の学生たちが、子育て支援事業に参加し、乳幼児と触れ合ったり、保護者の気持ちに寄り添ったりします。また、管理栄養学部、メディア造形学部の学生と協力して地域の親子に楽しんでもらえるようなイベントを企画・運営し、子どもたちと幅広い交流の機会をつくることで、いたわりや憧れの気持ちを育み、地域の子どもたちの豊かな心と体の育ちを支援していきます。

### **(3) 親として育つプロセスを支援します。**

保護者自身が、わが子の発達のありようを理解し、わが子との関わりの幅を広げ、親子の絆を深めてもらいたいと願っています。子どもケアセンターでは、そうした保護者としての育ちのプロセスに生じる悩みに寄り添い、保護者同士が語り合うグループワークを活用した子育て支援を大切にします。

### **(4) 発達に心配をもつ子ども・親への支援をします。**

子どもの発達に心配をもつ保護者は、保護者自身の思いが子どもに届きにくい体験から、焦燥感や孤立感を深めることに陥りやすくなりがちです。子どもケアセンターでは、保護者の思いに寄り添うきめ細やかな支援を、日進市の保健センター、子ども発達支援センターなどとネットワークをつくり、早期から連携できるようにします。

### **(5) 気軽に相談できる場をつくり子育て不安の軽減を図ります。**

子どもケアセンターには、幅広い専門性をもつ保育者がいることから、子どもの発達、遊び、しつけ、基本的な生活習慣など、気軽に子育ての相談を受けられる機会を設定しています。また、併設する子ども心理相談室では、臨床心理士が子育てや子どもの発達に関する相談に個別に応じます。

### **(6) 地域の仲間づくりを支援します。**

各講座のほか、子育て家庭に子どもケアセンターを開放し、子育て中の親子が仲間と出会う機会をつくります。また、親子のひろばを卒業した親子がつくる子育てサークルにも子どもケアセンターを開放し、サークル活動を支援します。さらに、にっしん子育て総合支援センターと連携し、地域の仲間づくり活動の広がりや深まりを支援していきます。

### **(7) 子育て支援ネットワークをつくり、活動を推進します。**

子どもケアセンターは、多彩な立場の人が集い、それぞれが育ち合える、新しい形の地域の拠点づくりを進めます。しかし、地域全体で子育て家庭を支え合う街づくりは、一人やひとつの機関・施設では実現できません。子どもケアセンターは、多様な子育て支援活動団体や公的機関・施設と、情報・人・役割をつなぐネットワークをつくり、活動を推進します。

### **(8) 大学のもつ専門性を活かした子育て情報の発信をします。**

各講座、ホームページ、『子ケア通信』、日進市広報、Instagramなどを媒体として、大学のもつ専門性を発揮した、子育てに活用しやすい、分かりやすい情報の発信に努めます。また、子ども心理相談室では、幼稚園、保育所、小学校との連携も深めていきます。

#### 4. 『体験型教育プログラム』の構築をめざして

子どもケアセンターの運営は、保育職員が地域の方々、大学の教員、学生と協働して運営しています。体験型教育プログラムとは、学生たちが、授業で学んだ知識を基に、子どもケアセンターで行う地域貢献活動に参加し、理論と実践を統合させることです。また、体験を通じた学びをレポートにまとめ、発表するなどの『実践的な応用力』を養っていきます。

##### (1) 授業と連動した取組（体験）

子どもケアセンターを知る	幼児保育専攻 1 年の『子どもケア基礎演習』では、子どもケアセンターの施設見学をして事業内容を理解します。体験の第一歩は、まずは子どもケアセンターをよく知ることから始まります。
子どもと触れ合う心構えを学ぶ	幼児保育専攻 1 年の『保育職キャリアデザイン I』では、観察・体験・討論を通して子どもと触れ合う心構えとともに、子育て家庭の保護者との関わり方を考えます。
子どもに安心・安全な環境づくりを学ぶ	幼児保育専攻 2 年の『乳児保育』では、乳幼児に相応しい発達を促す玩具を手作りしたり、乳幼児の安全・衛生の管理などの環境づくりを学んだりします。
授業の学びを親子の前で発表する	幼児保育専攻 4 年の『保育・教職実践演習』では、小グループで遊びの企画・準備を行い、子どもたちに提供します。子どもとのやりとりのタイミング、間合いなどを身につけます。

##### (2) 授業の空き時間を使った主体的な取組

主体的に取り組む	授業の空き時間を使って、ボランティアなどに自らの目標をもって取り組みます。その『主体性』は、子どもケア実践の土台をつくる力です。先輩の実践をモデルとして、憧れの気持ちを膨らませます。その『子どもとの関わりを深めたい』という前向きさが、自分自身を成長させます。
子どもの心に寄り添う	『親子のひろば』や『親力アップセミナー』の託児体験では、幼い子どもたちの言葉にならない心のサインを読み取り、子どもの気持ちに寄り添う姿勢を学びます。この『寄り添う』姿勢こそが、子どもケア実践の基礎の力となります。

保護者の思いに触れる	託児を通して、大切なわが子を託す保護者の思いに触れ、子どもの様子や自分自身の気づきを保護者に伝えます。また、子育てに葛藤する声を聞きます。そうした、子育て中の保護者のさまざまな思いに触れ、学外実習では味わえない体験をします。
子育て支援の大切さに気付く	地域に広がる子育て支援の中で、保育者や養護教諭、小学校教諭の役割とは、いったいどのようなものか、事業に参加して、子育てに悩む保護者の声を聞き、保育者による子育て相談を見ることで、子育て支援の大切さや専門職の役割について考えます。
子どもと楽しさを共有する	子どもは、どんなに幼くても、ひとりひとりが意思をもっています。頭の中での想像と、子どもと関わるなかで見える実際の子どもの姿とはまるで異なることがあります。子どもの反応を受け止めながら、楽しさを共有できる『間合い』を生きた体験から学びます。
仲間と共にイベントを創りあげる	これからの専門職としての保育者や養護教諭、小学校教諭には『企画力・調整力・協働する力』が必要です。『遊びの交流会』を企画・運営し、地域子どもたちと関わる中から感じたことを大切にしています。

(3) 各学部と協力した総合的な取組

学部を超えて知恵をつなぐ	年2回行っている『遊びの交流会』では、ヒューマンケア学部、管理栄養学部、メディア造形学部の学生たちがそれぞれの専門性を活かして、子どもたちの心が躍るようなダイナミックな遊びを中心としたイベントの企画をしています。
--------------	--

## 第 2 部

### 2025 年度 事業報告



# I. 年間スケジュール、利用実績

## (1) 2025年度 年間スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 入学式	4	5
4	6	7	8	9 自由あそび	10	11 年齢別イベント
	13	14	15 サークル	16 りすA	17 りすB	18 自由あそび
	20	21	22 自由あそび	23 あひるA	24	25 あひるB
	27	28	29 昭和の日	30 サークル		
				1	2	3 憲法記念日
5	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7 りすA	8 りすB	9 自由あそび
	11	12	13 自由あそび	14 サークル	15 あひるA	16 あひるB
	18	19	20 サークル	21 りすA	22 りすB	23 自由あそび
	25	26	27 自由あそび	28 親力アップ	29 あひるA	30 あひるB
6	1	2	3 サークル	4 りすA	5 りすB	6 自由あそび
	8	9	10 自由あそび	11 サークル	12 あひるA	13 あひるB
	15	16	17 自由あそび	18 りすA	19 りすB	20 自由あそび
	22	23	24	25 年齢別イベント	26 あひるA	27 あひるB
	29	30				
7			1 自由あそび	2 親力アップ	3 サークル	4 自由あそび
	6	7	8 自由あそび	9	10 自由あそび	11 サークル
	13	14 海の日	15	16 年齢別イベント	17 年齢別イベント	18
	20	21	22 サークル	23 自由あそび	24 サークル	25 自由あそび
	27	28	29 自由あそび	30 自由あそび	31	
8					1	2
	3	4	5	6 特別講座	7 特別講座	8
	10	11 山の日	12 夏季休業	13 夏季休業	14 夏季休業	15 夏季休業
	17	18	19	20 サークル	21 自由あそび	22 自由あそび
	24	25	26 自由あそび	27 自由あそび	28 サークル	29 自由あそび
	31					
9		1	2	3 年齢別イベント	4 サークル	5 自由あそび
	7	8	9 自由あそび	10 りすA	11 りすB	12 サークル
	14	15 敬老の日	16 自由あそび	17	18 あひる	19
	21	22	23 秋分の日	24 りすA	25 りすB	26 サークル
	28	29	30 親力アップ			
10				1 親力アップ	2 あひる	3
	5	6	7 自由あそび	8 りすA	9 りすB	10 自由あそび
	12	13 スポーツの日	14 サークル	15 自由あそび	16 あひる	17
	19	20	21	22 りすA	23 りすB	24 大学祭準備
	26 大学祭	27 大学祭片付け	28 自由あそび	29 あひる	30 サークル	31
11						1
	2	3 文化の日	4	5 りすA	6 りすB	7
	9	10	11 自由あそび	12 サークル	13 あひる	14 自由あそび
	16	17	18	19 年齢別イベント	20 自由あそび	21 サークル
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26 自由あそび	27 親力アップ	28
	30					
12		1	2 自由あそび	3 サークル	4 サークル	5 自由あそび
	7	8	9	10 サークル	11 自由あそび	12 自由あそび
	14	15	16 サークル	17	18 年齢別イベント	19
	21	22	23 自由あそび	24	25	26
	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
				1 元旦	2	3
4	5	6	7 サークル	8 サークル	9 自由あそび	10
11	12 成人の日	13 自由あそび	14 自由あそび	15 年齢別イベント	16	17
18	19	20 サークル	21 自由あそび	22 自由あそび	23	24
25	26	27	28 年齢別イベント	29 サークル	30 自由あそび	31
1 入試	2	3 入試	4 入試	5 入試	6 入試	7 入試
8 入試	9	10 サークル	11 建国記念の日	12 自由あそび	13 自由あそび	14
15	16	17 自由あそび	18 サークル	19	20 自由あそび	21
22	23 天皇誕生日	24	25 自由あそび	26 自由あそび	27	28 遊びの交流会
1	2	3 サークル	4 自由あそび	5 自由あそび	6 サークル	7
8	9	10 自由あそび	11 サークル	12 サークル	13 自由あそび	14
15	16	17	18	19	20 学位授与式	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## (2) 項目別相談件数

項目	基本的生活	発達・発育	医学的問題	生活環境	育児方法	虐待関係	合計
件数	9	14	1	11	11	0	46

## (3) 事業別参加組数

事業名	回数(回)	定員述べ組数(組)	参加組数(組)
年齢別イベント	9	144	114
親子のひろば	りす前期	10	80
	あひる前期	10	80
	りす後期	10	80
	あひる後期	5	40
自由あそび	事前申込み	57	515
	当日枠	53	338
ひろばサークル	24		152
親力アップセミナー	3	40	35
学生企画イベント遊びの交流会	2		111
子ども心理相談	随時		14
合計			1500

### (3) 地区別参加者数

		年齢別 イベント	親子の ひろば	親力アップ セミナー	自由あそび	ひろば サークル	学生企画 イベント 遊びの 交流会	子ども 心理相談	合計
日進市	親	80	166	23	538	98	106	17	1028
	子	91	166	27	620	107	127	19	1157
名古屋市	親	13	52	6	112	16	23	1	223
	子	13	66	7	138	21	26	0	271
長久手市	親	14	14	2	95	17	12	1	155
	子	16	14	2	113	17	17	1	180
尾張旭市	親	4	0	0	26	2	0	0	32
	子	6	0	0	36	2	0	0	44
みよし市	親	1	10	1	9	2	1	0	24
	子	1	10	1	9	3	2	0	26
瀬戸市	親	2	3	2	19	8	1	0	35
	子	4	3	2	22	10	1	0	42
豊田市	親	3	0	0	20	5	5	0	33
	子	4	0	0	27	7	7	0	45
東郷町	親	0	5	0	9	0	0	0	14
	子	0	5	0	10	0	0	0	15
その他	親	1	0	1	15	4	10	0	31
	子	1	0	1	15	4	9	0	30
合計		254	514	75	1833	323	347	39	3385

### (4) 事業別学生参加者数

事業名		学生				
		4	3	2	1	計
年齢別イベント		0	3	5	11	19
親子のひろば		7	16	54	45	122
自由あそび		0	25	8	146	179
親力アップセミナー		0	12	3	6	21
遊びの 交流会	キミもヒーローにならないか！ ～nuas に平和をとりもどそう～	0	54	46	95	195
	nuas EXPO 2026 ～世界のお祭りを楽しもう！～	9	14	17	18	58
子ども心理相談						
計		16	124	133	321	594

## II. 事業報告

### 1. 年齢別イベント

#### 1. 趣旨

家庭でもできる年齢に応じた遊びや季節に因んだ活動を提供し、楽しく子育てができるよう支援する。

#### 2. 日程・内容

	日程・対象・当日参加組数/定員	内 容
1回	2025年4月11日 2歳児の親子 18組/15組	春のさんぽ ・大学構内の散歩、こいのぼり製作
2回	2025年6月25日 1歳の親子 17組/20組	1歳のお友だち集まれ ・運動遊び、親子で触れ合い遊び
3回	2025年7月16日 1歳児の親子 17組/18組	水遊び（1歳児） ・色水遊び、寒天遊び、的あて、水車など
4回	2025年7月17日 2歳児の親子 14組/15組	水遊び（2歳児） ・色水遊び、寒天遊び、的あて、ウォーターズライダーなど
5回	2025年9月3日 0歳の親子 12組/15組	0歳のお友だち集まれ ・自由遊び、グループ交流、触れ合い遊び
6回	2025年11月19日 2歳児の親子 11組/15組	秋のさんぽ ・大学構内の散歩
7回	2025年12月18日 2歳児の親子 17組/18組	クリスマス会 ・学生によるベル演奏、製作、サンタクロースと雪だるま登場、パネルシアターなど
8回	2026年1月15日 4歳未満の親子 9組/10組	親子で音楽を楽しもう～“音楽療法“を学んでいる学生による音楽会！～ ・演奏を聴く、楽器を鳴らすなど
9回	2026年1月28日 2歳児の親子 9組/15組	節分ごっこ ・ペープサート、お面作り、豆まきごっこなど

#### 3. 活動の概要

##### (1) 春のさんぽ

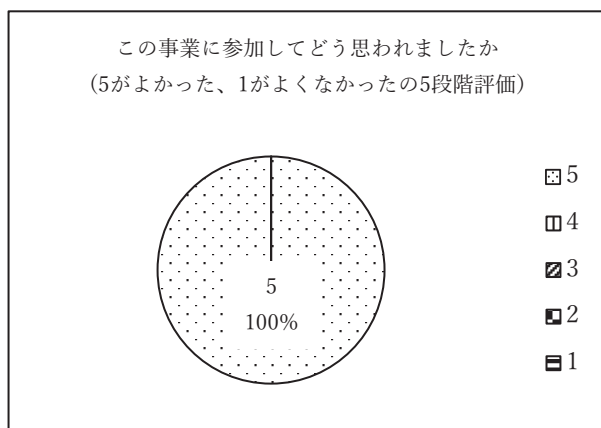
###### ①概要

前日に雨が降ったが、当日は散歩日和となり、大学構内を散策した。道路を歩く際の注意事項を説明し、信号の渡り方などの交通ルールを守って親子で安全に気を付けて横断歩道を渡った。今年は初めての試みで、スタンプラリー形式の遊びを行った。各ポイントに鱗のシールがあり、一枚ずつ好きな柄を選択して土台のこいのぼりに貼り付けていき、最終的に色とりどりの鱗がついたこいのぼりを完成させた。帰り道は、棒がついたこいのぼりを手に持って泳がせながら子どもケアセンターまで親子で歩いた。

また、どんぐり広場でどんぐりを拾ったり、芝生広場では苔のクッションを踏みしめたりと、思い思いに楽しむ様子がみられた。

## ②参加者アンケートより

- ・自然にも触れて、同じ月齢のお友達と同じ活動ができて楽しそうだった。
- ・先生がよく見てくれるので安心して歩けた。子どもは鯉のぼりを作って持つのが嬉しかったようだ。
- ・散歩の途中で休憩や次に進む仕掛けを用意してもらっていたので、子どもも楽しく歩くことができた。
- ・先生の他にも学生がよく子どもを見てくれて、子どもの目線に合わせてたくさん声かけをしてくれて素敵なお方だった。



## (2) 1歳のお友だち集まれ

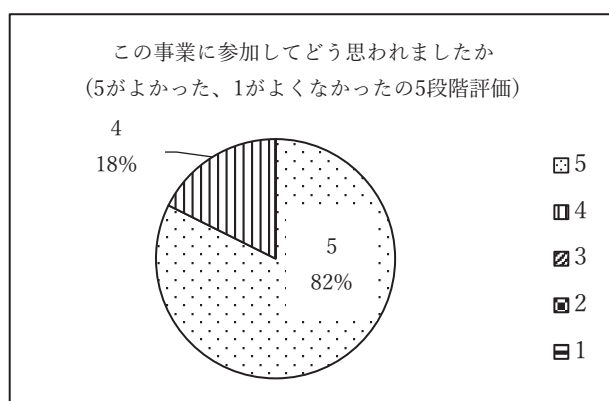
### ①概要

今年は身体を動かすことをねらいとして、講座の前半は広々とした NUAS ホールで運動遊びを行った。ブロックマットの滑り台やゆらゆらトンネル、コンビカーなど様々な遊具を設置した。また、ままごとやボールプールなど普段プレイルームにある玩具も設置し、広いホールでも安心して過ごせるよう配慮した。

後半は、季節に因んだものを中心に、わらべうたやかえるのうたの輪唱や絵本の読み聞かせを行い、親子で穏やかに触れ合う時間をもつことができた。

## ②参加者アンケートより

- ・とにかく身体を動かすことが大好きなので、たくさんの種類の遊びがあって楽しかった。マットにフラフープが通してあってゆらゆら揺れるものは初めて見て、とてもおもしろいと思った。これから暑くなるので、こんなに広くてのびのびと遊べる場所があるのはありがたい。
- ・自由あそびだけでなく、絵本の読み聞かせやわらべうた遊びなどもあって良かった。



## (3) (4) 水遊び 〈1歳児〉〈2歳児〉

### ①概要

両日ともに雨のため水遊びは中止とした。参加者は自由あそびとしてプレイルームやスロープ横で過ごした。特別に、夏ならではの寒天遊びの場を設け、手で潰して冷たい感触を味わったり、型抜きをしたりして楽しんだ。プレイルーム内には、保育者が作った水遊び用のおもちゃを掲示し、家庭での参考になるようにした。自由あそび後は、ペープサートとバルーンのお楽しみを実施し、終了した。水遊びを実施していないため、参加者アンケートはなしとした。

## (5) 0歳のお友だち集まれ

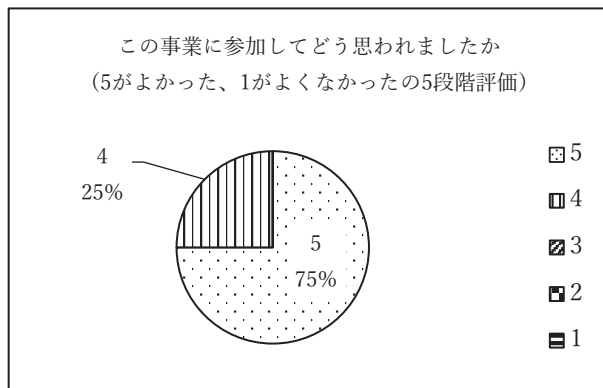
### ①概要

例年6か月から1歳前までの子どもを対象にしていたが、今回は対象の範囲をもう少し広げて3か月から1歳前までの子どもとその保護者を募集した。

ねんねコーナーやおすわりコーナー、はいはいコーナーの3つにエリアを分けて、それぞれの発達に合わせた玩具や遊具、手作りおもちゃを用意した。マットのすべり台やトンネルなどの遊具では、ハイハイや腹ばいで身体全体を使って楽しんでいた。学生や保育者による見た目にも楽しい手作りおもちゃは、どうやって作ったのだろうと興味をもつ保護者が多くみえた。また、月齢ごとにグループ交流の時間を設け、参加者同士で子育ての情報交換をする機会をつくった。きょうだい児がいる方が多く、同じ悩みを共有し、和やかに話される様子がみられた。

## ②参加者アンケートより

- ・自由あそびにないおもちゃもあって楽しそうに遊んでいたのがよかった。
- ・上の子が居るとなかなか下の子と触れ合う時間がないので、とても楽しかった。
- ・同じ月齢の子達と触れ合えて楽しかった。もう少しグループの時間があるともっと嬉しかった。



## (6) 秋のさんぽ

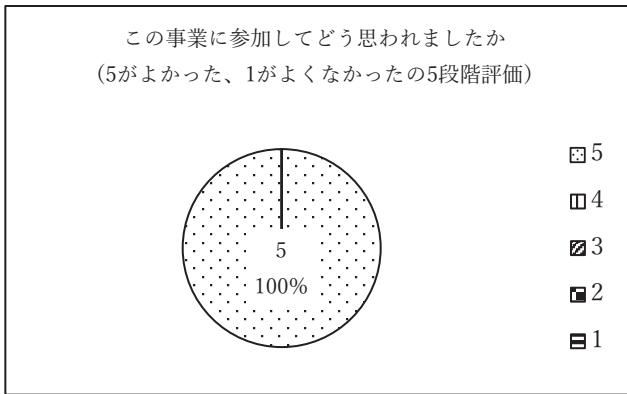
### ①概要

双眼鏡とビニールでできたバッグを身に着けて、春のさんぽよりも長い道程で大学構内を散歩した。落ち葉を踏みしめ紅葉を見上げつつ坂道をのぼり、秋の季節を存分に感じながら親子で歩いた。

双眼鏡をのぞいて景色をみたり、珍しい木の実を見つけ親子で教え合ったりと、子どもたち同士で秋の実りを発見した喜びを共有していた。秋の木の実がたくさん実って道に落ちていたため、木の実や木の葉を拾ってバッグにしまっていた。中でも木の実に興味をもつ子どもが多くおり、保育者が用意していた手作りの植物図鑑と照らし合わせて探す様子がみられた。子どもケアセンターに帰ったあとは、小さなペットボトル容器に拾った実や葉を詰めて、オリジナルのマラカス作りを楽しんだ。

### ②参加者アンケートより

- ・普段近くで木の実をみかけたことはあっても、じっくり拾ったり遊んだりしたことはなかったので、良い経験になった。
- ・散歩をしながら様々なスポットがまわられて、それぞれ違った木の葉や木の実など、楽しみ方が豊富で、子どもも大人もとても楽しむことができた。
- ・普段は入れない構内を探検でき、自然と触れ合いながらのんびり散歩ができたので、とても良かった。



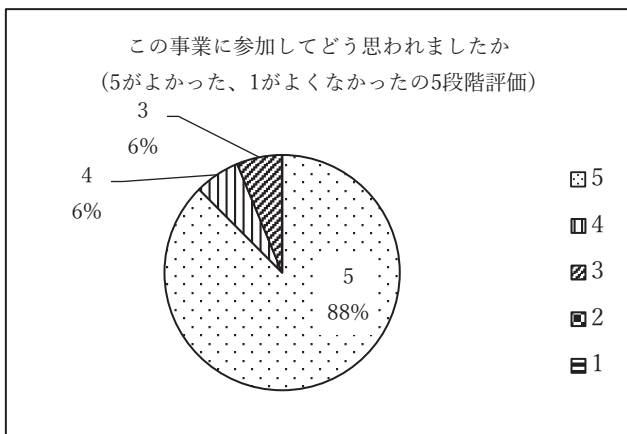
## (7) クリスマス会

### ①概要

今回初めて学生によるベル演奏を行った。普段とは異なる雰囲気が始まるので最初は緊張していた子どもも、次第に笑顔が見られるようになった。サンタ・ブーツの製作や塗り絵をはじめ、パラバルーン、親子でダンス、パネルシアターなど盛り沢山の内容で行うことができた。クリスマスの雰囲気を楽しみながら、サンタ・トナカイ・雪だるまの写真を撮影を行うことができた。

### ②参加者アンケートより

- ・子どもたちが飽きないようなプログラムでどれも楽しかった。
- ・楽しい工作に音楽にサンタさんとの写真撮影がよかった。
- ・製作やダンス、いろいろな種類の遊びをさせてもらえた。先生方が楽しんでいる様子が子どもたちにも伝わっていると感じた。



## (8) 親子で音楽を楽しもう～“音楽療法“を学んでいる学生による音楽会！～

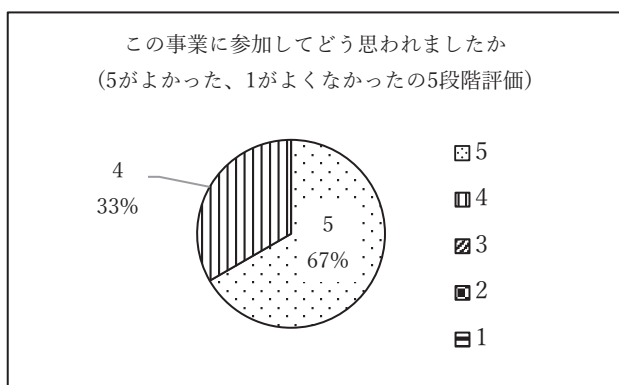
### ①概要

学生による音楽療法を行った。音楽療法とは目的をもって意図的に音楽を使うことであり、今回は保護者もリラックスできるようにということを目的とした。

子どもの名前を呼びながら歌うことで、保護者や子どもの喜ぶ姿が見られた。実際に多くの本物の楽器を見て、触れて、演奏して、子どもが楽器や音楽に興味をもっていた。

## ②参加者アンケートより

- ・ 学生の皆さんそれぞれの発表がどれもとても楽しかった。楽器の演奏も合唱も感動した。
- ・ 子どもたちが普段触れない楽器に触れたり、聴いたりする良い機会になった。
- ・ 多くの種類の楽器の音に触れ合い、リラックスできた。



## (9) 節分ごっこ

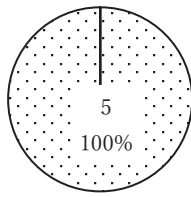
### ①概要

鬼のお面づくりでは保育者が『あわてんぼう鬼』『くいしんぼう鬼』といったイメージしやすいお面をかぶり、子ども達に紹介した。書くことが苦手な子どももいることから、貼るだけでも可愛くなるようなものを準備した。鬼は怖いというイメージを払拭するために可愛く愉快的な鬼が登場して、明るい掛け合いの場面を披露した。笑顔で見えていたり、勇敢に豆を投げたりと積極的に参加する姿が見られた。

### ②参加者アンケートより

- ・ 節分が何かしっかりと理解できた。来る前までは鬼が怖いと思っていたみたいだが、参加させてもらって怖くなくなった。
- ・ パーツを貼る場所、クレパスでのお絵かき等、自分の作りたいものが出来るまで時間をかけ、こだわって作ることができた。
- ・ 歌、工作、パネルシアターなど、様々な活動をテンポよく行ってくださり子どもたちが飽きることなく楽しんでいた。

この事業に参加してどう思われましたか  
(5がよかった、1がよくなかったの5段階評価)



- 5
- 4
- 3
- 2
- 1



## 2. 親子のひろば

### 1. 趣旨

0、1歳児の子育てについて、仲間と一緒に考え合い、保護者同士が交流する機会を提供し、子育てを支援する。

### 2. 日程・活動の概要

#### (1) 前期

##### ①対象・定員

りす：生年月日が2024年4月2日～2024年9月30日の子どもとその保護者各8組

あひる：生年月日が2023年4月2日～2024年4月1日の子どもとその保護者各8組

##### ②日程・活動の概要

回	日程	内容	託児
1回	4月16日	子どもケアセンターに慣れよう ・自己紹介 ・託児の聞き取り	無し
	4月17日		
	4月23日		
	4月25日		
2回	5月7日	自己紹介ゲームをしよう ・最近買って良かったもの・おすすめのスーパー・人生で行って一番良かった場所・好きな芸能人など	別室
	5月8日		
	5月15日		
	5月16日		
3回	5月21日	子育てについて話してみよう ・夫との家事の役割分担・離乳食の進め方・子どもと一緒に に行けるおすすめスポット・食事の時の対応・きょうだい児 への接し方など	別室
	5月22日		
	5月29日		
	5月30日		
4回	6月4日	センサリーボトルを作ろう ほっとひといきティータイム	別室
	6月5日		
	6月12日		
	6月13日		
5回	6月18日	サークルを立ち上げよう	無し
	6月19日		
	6月26日		
	6月27日		

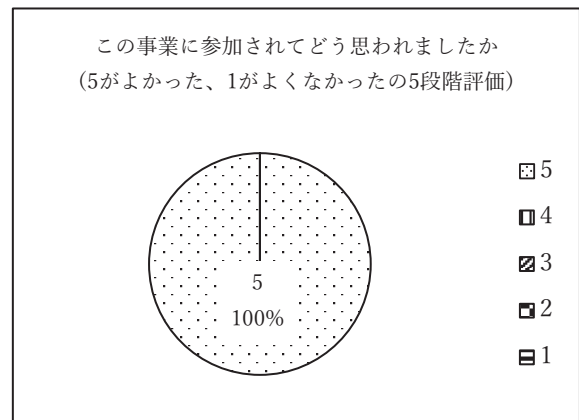
保護者同士の交流を必要とされた方の『ご縁とつながりを大切にしてほしい』という思いから、最終的にサークルを立ち上げることを目的とした全5回の連続講座にした。

1回目は子どもケアセンターに慣れてもらうことを目的とし、保育者の紹介と親子の自己紹介の場を設けた。その後普段の子どもの様子について聞き取りを行い、自由に遊んだ。2回目からは子どもたちの託児が始まり、保護者は別室で講座を行った。お互いを知ろうという目的で自己紹介ゲームを行った。色々な質問に盛り上がり、一気に場が和んだ。3回目はリアルタイムで悩んでいること、聞きたいことを共有する場を設けた。「離乳食や寝かしつけなど、日々の過ごし方のヒントを沢山聞けて良かった」という声が多くあがった。4回目はセンサーボトル作りとほっとひといきティータイムを行った。センサーボトル作りではそれぞれオリジナリティ溢れるボトルができ上がった。その後、自宅から持ち寄ったお菓子を食べながら会話を楽しんだ。5回目はサークルの立ち上げをした。サークル名を決めたり写真撮影をしたりして、最後は保育者によるおたのしみのバルーンで締めくくった。今後はサークル仲間として楽しく活動してもらいたい。

### ③参加者アンケートより

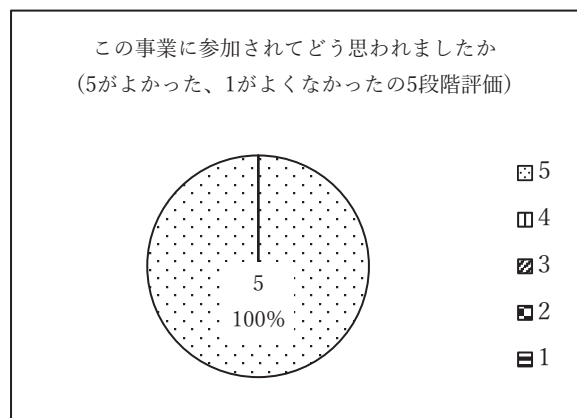
<りす A>

- ・毎回楽しくあつという間だった。素敵な方々と出会えて充実した時間を過ごす事ができた。
- ・託児中の様子を詳しく伝えてくれ、安心して預けることができた。
- ・2週に一度のペースで負担なく通うことができた。



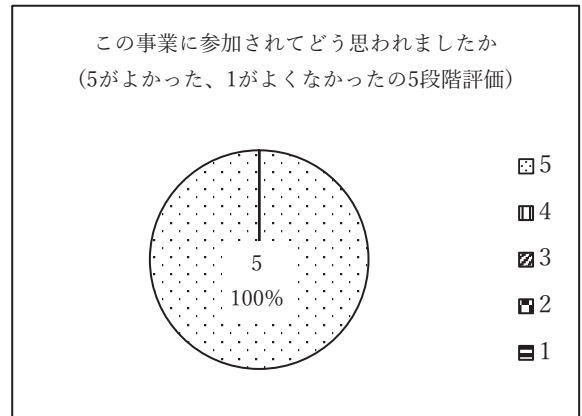
<りす B>

- ・母たちだけでゆっくり会話ができとてもリフレッシュになった。
- ・同じ年齢の子ども、第二子以降という同じ境遇で集まれることはなかなか無いのでとても良かった。
- ・子どもが初めての託児でどんな反応をするのか、またどのように慣れていくのか見られて良かった。



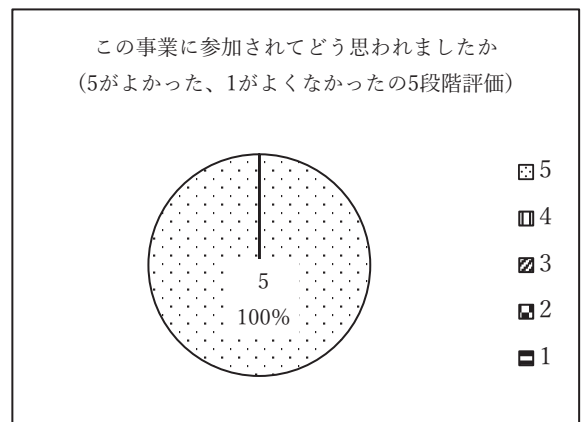
<あひる A>

- ・遊び場が広く、親同士も交流ができ保育者の方も親切で良かった。
- ・親と離れる時間を子どもに経験させることができ良かった。
- ・悩みを共感できたり、意見を参考にさせてもらったりと楽しく過ごす事ができた。



<あひる B>

- ・純粹に楽しかった。子どもと離れて意外な姿も発見できた。
- ・自分の子が保育者や学生と思っていたよりもコミュニケーションをとれていて驚き、嬉しく感じた。
- ・施設がとても綺麗で、保育者や学生の方々が温かく迎えてくださりとても安心して過ごす事ができた。



(2) 後期

①対象・定員

りす：生年月日が2024年4月2日～2025年4月1日の子どもとその保護者各8組

あひる：生年月日が2023年4月2日～2024年4月1日の子どもとその保護者各8組

②日程・活動の概要

回	日程	テーマと内容	託児
1回	9月10日	子どもケアセンターに慣れよう	無し
	9月11日	・自己紹介	
	9月18日	・託児の聞き取り	
2回	9月24日	自己紹介ゲームをしよう	別室
	9月25日	・人生で行って一番良かった場所・現在(昔)の趣味・好きな芸能人	
	10月2日	・子どもが寝たら何がしたいか・最近買って良かったもの ・昔のアルバイトなど	
3回	10月8日	子育てについて話してみよう	別室

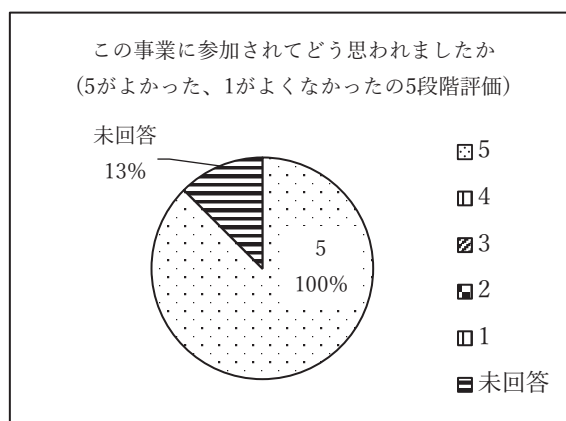
	10月9日 10月16日	・毎日の生活の流れ・平日の子どもとの過ごし方・子どもとの遊び場・離乳食の内容、量・トイレトレーニングの方法・イヤイヤ期の対応など	
4回	10月22日 10月23日 10月29日	センサリーボトルを作ろう ほっとひといきティータイム	別室
5回	11月5日 11月6日 11月13日	サークルを立ち上げよう	無し

毎回欠席者がいること、2グループに分かれての作業も多いことを考慮して、各クラス8名募集とした。今までは5回連続講座の最後に保護者同士の連絡先を交換していたが、交流が深まるようにあえて1回目に行った。ニックネームで呼び合ったり、昼食を一緒にとる約束をしたりと回を重ねるごとに仲が深まり、その結果、アンケートでは「連絡先を早く知ることができて良かった」との意見が寄せられた。センサリーボトル作りでは、日頃ゆっくり触れることが難しい細々したビーズやラメなどを手にとり、心をときめかせながら癒される時間になった。話し好きな方もいれば、聞き役に徹する控えめな方もおり、クラスカラーは様々だった。前期・後期共に毎回人気の講座だが、新規の方はもちろん「上の子で受講していて楽しかったから」「そこで作られたサークル活動が今も続いていて、いい仲間に出会えたから」というリピーターの方も多し。新しい仲間との出会いに期待されている印象を受けた。

### ③参加者アンケートより

<りすA>

- ・子どもが家族以外の人とどう関わるのかを知る良いきっかけとなった。学生さんにも子どもにも、多方面に向けて良い刺激となっていると感じた。また、学生さんからだけでなく保育者さんからも様子を伝えていただけたので、しっかりみてくださっていることが分かり安心して託児ができた。
- ・私たちママに寄り添った内容でとても嬉しかった。保育者さんの託児の聞き取りや、マンツーマンの学生対応など安心できるところがいくつもあった。また他のママとも仲良くなれた。

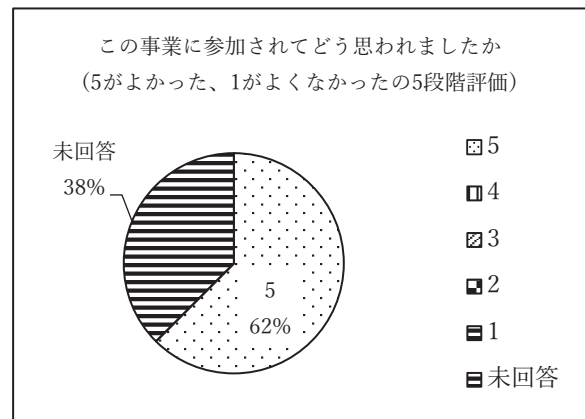
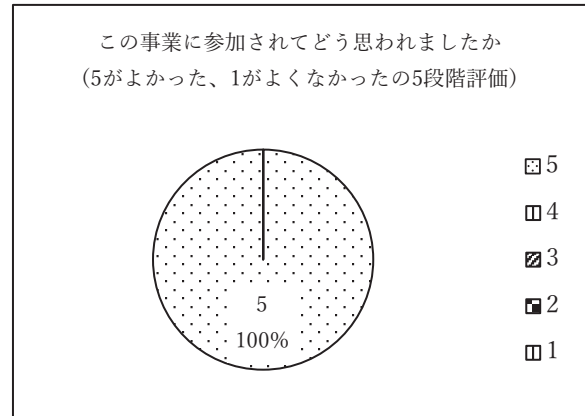


<りす B>

- ・支援センターなどに行っても、プライベートでつながるところまでは難しいので、同じ年齢の子どもをもつママたちとこれからもつながることができて嬉しかった。
- ・初めて預けたが短時間でも離れられると気分転換になるし、子どもの反応を知ることができて良かった。

<あひる>

- ・分離不安が強い息子だったので、3回を通して同じ保育者さんにみていただき息子も安心して慣れたのか、最終託児では遊べるようになったのが嬉しかった。
- ・学食とホール前の遊び場を何回か利用したが、子どもが脱走すると捕まえてくれる学生さんや、子どものハイタッチに応じてくれる学生さんが沢山いて本当に助かった。



### 3. 親力アップセミナー

#### 1. 趣旨

ヒューマンケア学部及び他学部の教員による専門性の高い講話や実践を通して、子育てを支援する。

#### 2. 日程・内容

	日程・対象・当日参加組数/定員	内容・講師
1回	2025年5月28日 6か月以上4歳未満の子どもとその保護者(託児) 10組/12組	シルクスクリーンプリントでオリジナルトートバッグを作ろう 島上祐樹 メディア造形学部ファッション造形学科 准教授
2回	2025年7月2日 6か月以上4歳未満の子どもとその保護者 13組/15組	親子でわくわく音楽体験～手遊びからクラシックまで～ 岡田暁子 ヒューマンケア学部子どもケア学科 教授
3・4回	2025年9月30日・10月1日 6か月以上4歳未満の子どもとその保護者(託児) 12組/12組・8組/10組	ヨガと瞑想～ありのままを受け容れる～ 林麗子 ヒューマンケア学部子どもケア学科 准教授
5回	2025年11月27日 興味のある方はどなたでも(妊娠中の方も可) 6か月以上4歳未満の子どもとその保護者(託児) 11組/13組	世界を広げる赤ちゃんのコミュニケーション～発達心理学から見えてきた赤ちゃんの能力～ 中島卓裕 ヒューマンケア学部子どもケア学科 講師

#### 3. 講座の概要

##### (1) シルクスクリーンプリントでオリジナルトートバッグを作ろう

###### ①概要

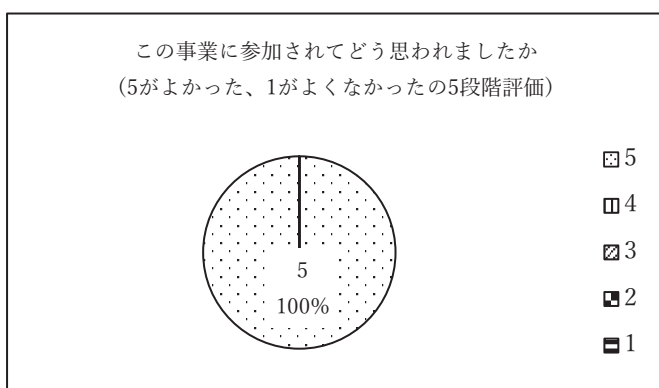
本学の映像メディア学部講師を招き、メディア棟へ移動してシルクスクリーンプリントの講座を開催した。予め用意された様々なイラストの中から、好みのイラストと、インクの色を選び、トートバッグに印刷をした。メッシュ状の版にインクをのせ、インクの量とヘラの力加減で仕上がりが変化していた。刷るのは一度限りのため、参加者も緊張の一瞬であった。

子どもたちは託児で、学生や保育者と共に、プレイルーム内で絵本を読んだり玩具で遊

んだりと楽しく過ごしていた。

## ②参加者アンケートより

- ・シルクスクリーンプリントを経験したことがなかったので、とても面白かった。
- ・託児をしてもらい、トートバッグを作ることができて有意義な時間を過ごすことができた。
- ・子どもと離れることができてリフレッシュできた。トートバッグも可愛いのですぐ使いたい。



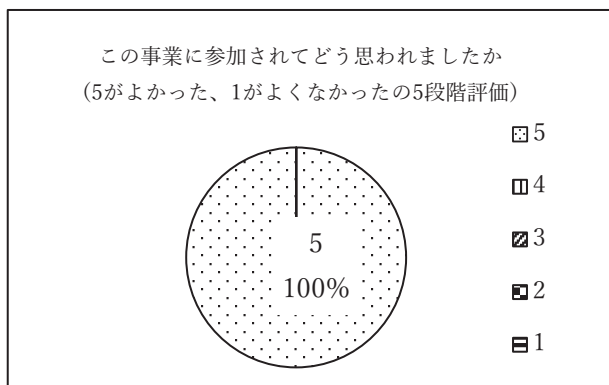
## (2) 親子でわくわく音楽体験～手遊びからクラシックまで～

### ①概要

本学のヒューマンケア学部講師による音楽体験を行った。グランドピアノによるクラシック演奏では、講師が弾くピアノに耳を傾けて、親子で心地よい時間を過ごしていた。わらべうたや触れ合い遊びでは、「なべなべそこぬけ」「ぎっこんぱっこん」「ひつつきもつつき」など親子で歌に合わせて触れ合い、笑顔があふれていた。また、大型絵本「はらぺこあおむし」は、生演奏に合わせて保育者が歌いながら読み聞かせをした。楽器に触れる時間も設け、家庭にもあるものから、普段見慣れないものまで数多くのものが用意されていた。実際に触れて音を鳴らして参加者同士でもコミュニケーションをとっており、にぎやかな時間を過ごした。

### ②参加者アンケートより

- ・私自身も初めて見る楽器があり、驚きと発見の連続だった。
- ・先生方の熱心な姿勢がとても素晴らしいと思った。学生さん方の雰囲気も大変よく、親の私も楽しんで参加することができた。
- ・自由に動き回っても良い音楽会、とてもリラックスして参加できた。またやってほしい。素敵な演奏、温かい保育者さんの声掛けがたくさんあり、参加して良かった。



### (3) (4) ヨガと瞑想～ありのままを受け容れる～

#### ①概要

講師体調不良のため、2日間とも講座は実施しなかった。参加者は自由あそびとして、プレイルームやスロープ横で一日遊んで過ごした。

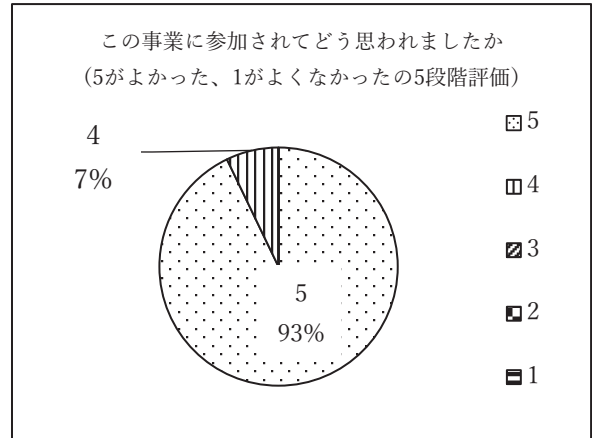
### (5) 世界を広げる赤ちゃんのコミュニケーション～発達心理学から見えてきた赤ちゃんの“能力”～

#### ①概要

発達心理学の観点から赤ちゃんとの関わり方を学ぶ講座を実施した。対象を『興味のある方はどなたでも申し込み可能』とし、今現在子どもを育てている方だけではなく妊娠中の方や祖父母など広範囲の方を対象に行った。前半は資料と解説をもとに、赤ちゃんが成長していくにつれてどのような能力をもつのかを学び、理解を深めた。後半は「伝達の難しさ」を体験するブロックゲームを行い、ワークショップを通じてコミュニケーションの本質や重要性を再確認する、活気ある学びの場となった。

#### ②参加者アンケートより

- ・ワークを通して、相手に言葉が伝わった時の嬉しい気持ちを実際に感じる事ができた。子どもは、今は自分の気持ちを伝えるのがなかなか難しいと思うので、少しでも子ども目線に立って、今後関わっていきたいと思った。
- ・親になってから講義を受ける経験がとても良く、楽しい学びだった。また、子どものもどかしさを少しでも体験できて良かった。
- ・子どもに声を掛けたり、コミュニケーションを積極的に取ったりしようと思った。



## 4. 自由あそび

### 1. 趣旨

地域の子育て家庭にプレイルームを開放し、親子が安心して触れ合う場や他の親子と交流する場を提供するとともに、子育ての相談に応じる。

### 2. 日程・対象

日程：年間スケジュール参照

時間：10：00～15：00

対象：4歳未満の子どもとその保護者



### 3. 活動の概要

今年度から『自由開放』から『自由あそび』と名称を改めた。『自由開放』だと「どなたでもいつでも来てください」という意味にも捉えられ、予約せず来所される方も見受けられたため、新規の方にも分かりやすいよう名称を変更した。4歳未満の子どもであれば就園していても来所が可能のため、夏休みに入ると4歳未満の年少児の利用が増えた。また、就労している保護者が休みの日に親子で来所する姿もみられた。今年も事前予約枠10組、当日枠5組とし募集しているがHPの性質上、5組を超える場合もあった。午前も午後も各計15組となるように募集を行った。翌月分の日程について、今月の製作やフォトスポットと併せて、Instagramで発信し周知を図った。当日枠を設けることで、当日の都合や友だちと予定を合わせて来られる方も増え、毎回10～15組程の親子が来所されている。スロープ横では、夏にボールプールを設置すると利用者からも大盛況で、連日親子で賑わっていた。冬にはコンビカーに乗って道に沿って走ったり、滑り台を楽しんだりする姿が多くみられた。プレイルームではままごと、今月の製作、2歳児向けに新たに指先を使って遊べるフルーツタルト、アイスクリームショップ、大工セットなどを取り入れると人気が集まった。また、誤飲に繋がる細かいおもちゃも増えたため『貸し出し一覧表』を掲示し、借りたら返すというシステムにした。『今月のわらべうた』をプレイルームに掲示し、毎回お楽しみタイムで紹介した。母子で来所される方がほとんどであったが、時代に合わせて父親の来所が増えてきている。育児休暇取得中の父子で来所される方や休日に夫婦で来所される方がおり、育児への参加意識が高くなってきていると感じる。寒い季節には床暖房がとても重宝している。

前期は幼児保育専攻1年の『保育職キャリアデザインⅠ』の授業と連携し、1年生の学生と親子が触れ合う機会を多く設けた。後期には、幼児保育専攻4年の『保育・教職実践演習』の授業で4年生の学生が親子の前で実際にお楽しみタイムを実践し、親子と触れ合う機会を設けた。外国語大学の英語サークル所属の学生が昼休憩の時間に来所し、英語の紙芝居の読み聞かせも実施した。

## 5. ひろばサークル

### 1. 趣旨

親子のひろばに参加した親子から立ち上がった子育てサークルに、子どもケアセンターを開放し、主体的な活動を手助けし、地域の仲間づくりを支援する。

### 2. 日程・対象

日程：年間スケジュール参照

時間：10：00～15：00

対象：親子のひろばを終了後、立ち上げられた子育てサークル

### 3. 活動の概要

親子のひろばの中で交流を深め、立ち上がったサークルが年に数回プレイルームで集まり、メンバーで考えた活動を行っている。今年度は11サークルで始まり、前期後期の親子のひろばを経て、現在は18サークルが在籍している。

子どもケアセンター内の備品を活用し、ハロウィンのマント作りをしたりクリスマスにはクリスマスの衣装を着てクリスマス会を行ったりと、季節や行事にちなんだ製作や手形足形アートで子どもの成長を記録するなどの活動が多く行われた。また、プレイルーム内でゆったりと過ごしながらか子育ての悩みや日常の出来事を共有し、相談する場としても活用された。



## 6. 学生企画イベント 遊びの交流会

### 1. 趣旨

学生が地域の親子向けに、遊びの企画から準備や当日の運営をし、地域とのつながりを深めるとともに企画力、調整力、協働する力を身に付ける。

### 2. 日程・内容

	日程・対象・参加組数	内容
1回	2025年11月8日(土) 10:00~12:30 年少から年長の子どもとその保護者 58組	キミもヒーローにならないか! ~nuasに平和をとりもどそう~
2回	2026年2月28日(土) 10:00~12:30 3歳以上の未就学児とその保護者 53組	nuas EXPO 2026 ~世界のお祭りを楽しもう!~

### 3. 活動の概要

(1) キミもヒーローにならないか! ~nuasに平和をとりもどそう~

#### ①概要

子どもたちが憧れを抱く『ヒーロー』をテーマに、子どもたちがヒーローになりきって相手に喜ばれる経験ができるよう、様々な遊びを学生が考え、展開した。

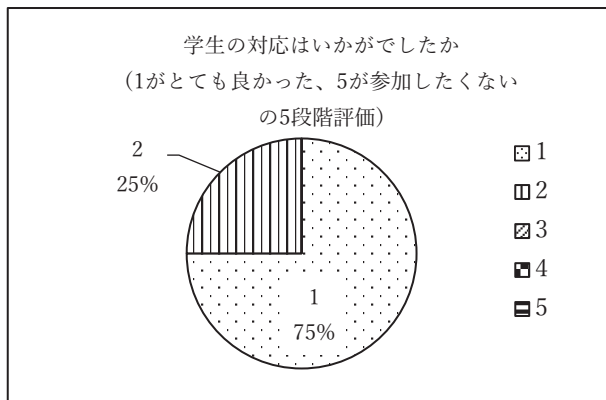
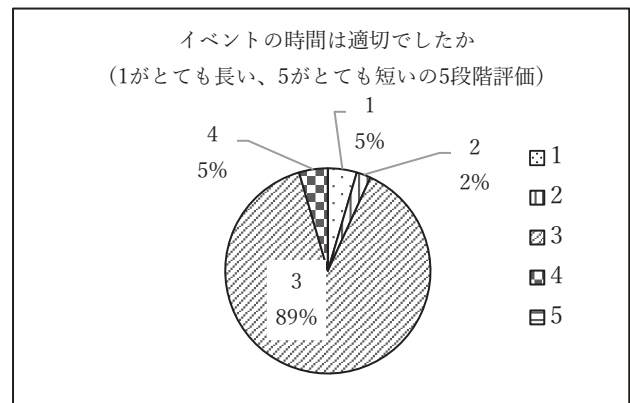
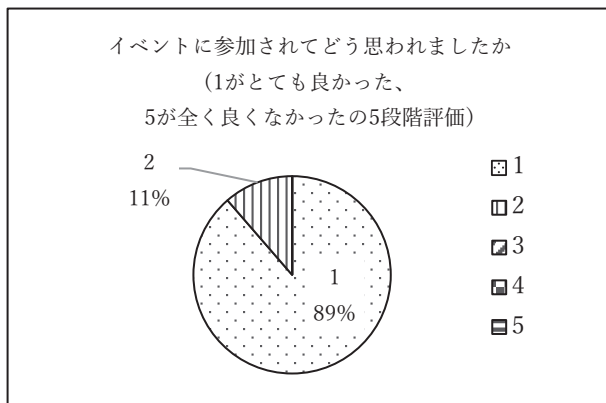
プレイルームでは『自分だけの変身アイテム作り』を行った。子どもは紙コップに絵を描いたりシールを貼ったりして、オリジナルのアイテムを身に着けた。子どもたちに作り方の説明書を配付し、家に帰ってからも作れるように工夫をした。

NUASホールでは、アスレチックに挑戦し、学生と一緒にヒーロートレーニングをしたり、悪い怪獣と戦って荒らされた町を救ったりと、子どもたちがヒーローになりきって遊ぶ姿がみられた。

Nカフェでは、困った人を助けるために迷路の町へ!頼まれた品物を目指し、お買い物ごっこを展開した。手に入れた品物は電車に乗り、困っている人の元へ届けた。学生扮する車掌や電車の装飾をしたトロッコが本物のようで、子どもたちは嬉しそうな表情を浮かべていた。

学生たちは『ヒーロー』という子どもたちにとってわかりやすいテーマと世界観で、特別感を味わってもらえる工夫をした。また遊びの終わりには子どもたちに「ありがとう!」と声をかけ、人に喜ばれること、感謝されることの心地よさを味わえるよう意識して関わる様子が見られた。

## ②参加者アンケートより



- ・「ヒーロー助けてくれてありがとう！」など色々な場所でほめてもらえたので 終始楽しんでいるように見えた。
- ・どのブースでも明るく元気に出迎えてくれ、さりげないサポートもあり楽しんでいた。
- ・声援や見送りで本当のヒーロー扱いをしてもらい、本人は照れながらも嬉しそうにしていた。
- ・満足感と達成感でいっぱい、帰宅後子どもが製作物や体験談を家族に自慢気に報告している姿が印象的だった。
- ・何度も参加できるシステムが良かったと思った。1度目は要領が掴めなかったり、緊張であまり学生さんと話せなかったりした息子が、回を重ねると自分から話しかけ、楽しんでいるよかった。



## (2) nuas EXPO 2026～世界のお祭りを楽しもう！～

### ①概要

昨年開催された大阪・関西万博をきっかけに、遊びを通して世界のお祭りを体験し、子どもたちに広い世界を楽しんでもらいたいという思いから「nuas EXPO」を開催した。

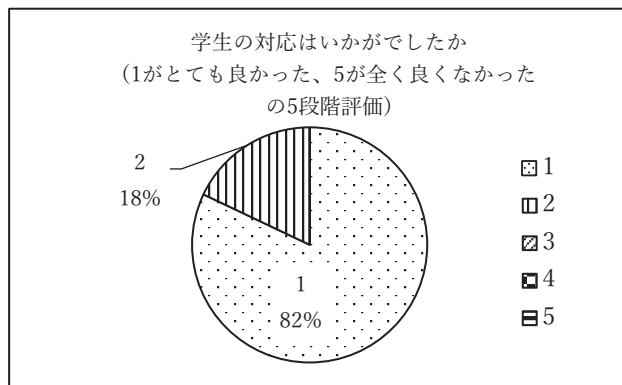
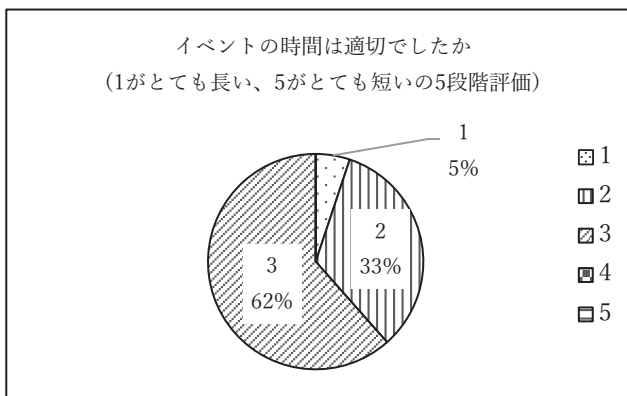
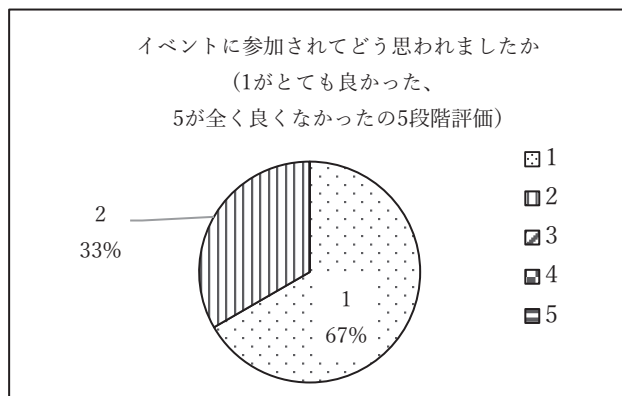
アメリカのイースターハントをテーマにした遊びでは、転がる卵をキャッチしたり、森の中に隠れた卵を一生懸命に探したりした。卵を見つけた瞬間のキラキラした笑顔が印象的で、中には何度も繰り返し挑戦する子の姿も見られた。

スペインのトマティーナ（トマト祭り）では、広々とした NUAS ホールを会場に、トマトに見立てた球を的に投げたり、学生と元気よく投げ合いをしたりした。学生手作りの「トマトのマント」を羽織ることで、全身でお祭りの熱気を感じ、会場は大きな盛り上がりを見せた。

タイのランタンフェスティバルをテーマにした活動では、まず自分だけのランタン作りに挑戦した。どの子もじっくりと時間をかけて絵を描き、個性豊かな作品を完成させた。その後は船に見立てたトロッコに乗り、明かりの灯る部屋をゆっくりと回った。キラキラと輝く空間を、自作のランタンと一緒に楽しむ穏やかなひとときとなった。

フィナーレでは、一日の思い出を振り返る劇を行った。最後には学生と子どもたちが一緒になって「小さな世界」を踊り、会場全体が一つになった。笑顔あふれる温かい雰囲気の中で、すべてのプログラムを終了した。

### ②参加者アンケートより

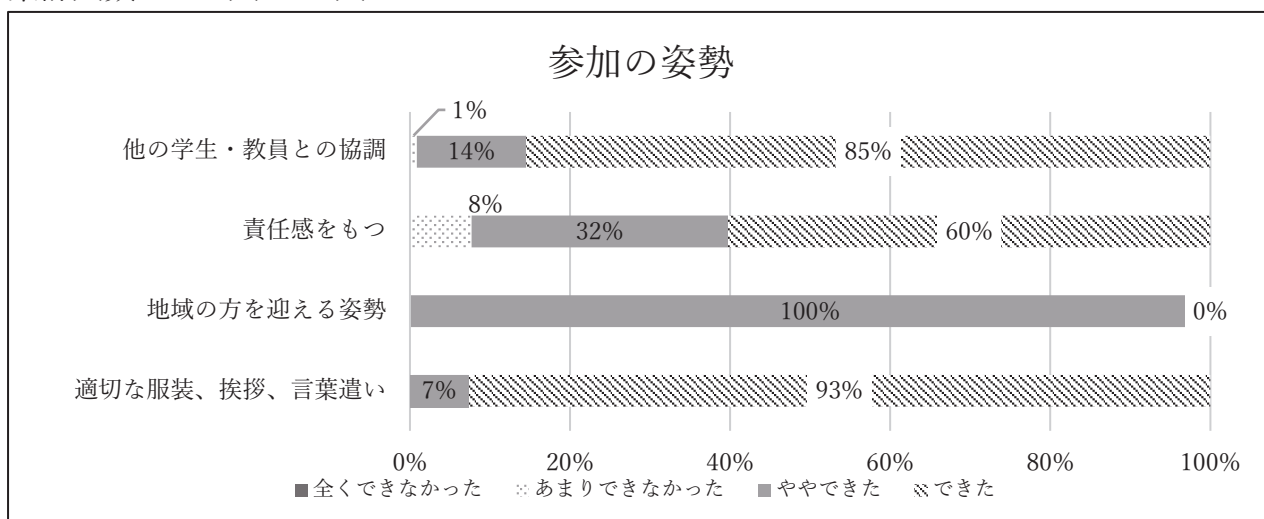


- ・よく準備されていて、感心した。将来、保育者、幼稚園や小学校の先生になられるということで、同業者として頼もしく感じた。
- ・手作りのものがどれも素敵で、子どももとても楽しんでた。
- ・投げたり渡ったりして体を動かすところ、探したり転がしたりするゲーム的なところ、描いたり作ったりするところなど、いろいろなことを楽しめるようになってよかった。
- ・コーナーに入る時の待ち時間で子どもが退屈してしまうことがあったので、並ばなくていいような工夫や、並んでいる時に楽しめるものがあるといいと思った。
- ・フィナーレで他の参加者の子と一緒に取り組む活動があって、よかった。
- ・どの遊びも色々と考えてくださっていて、親子共々楽しい時間を過ごさせていただいた。またぜひ参加したい。

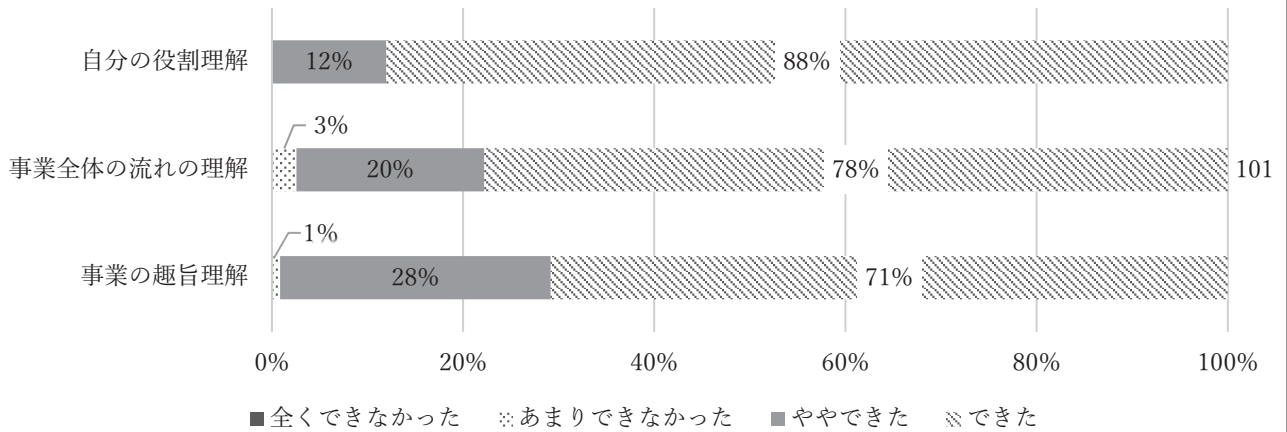


【学生振り返りシートの結果】

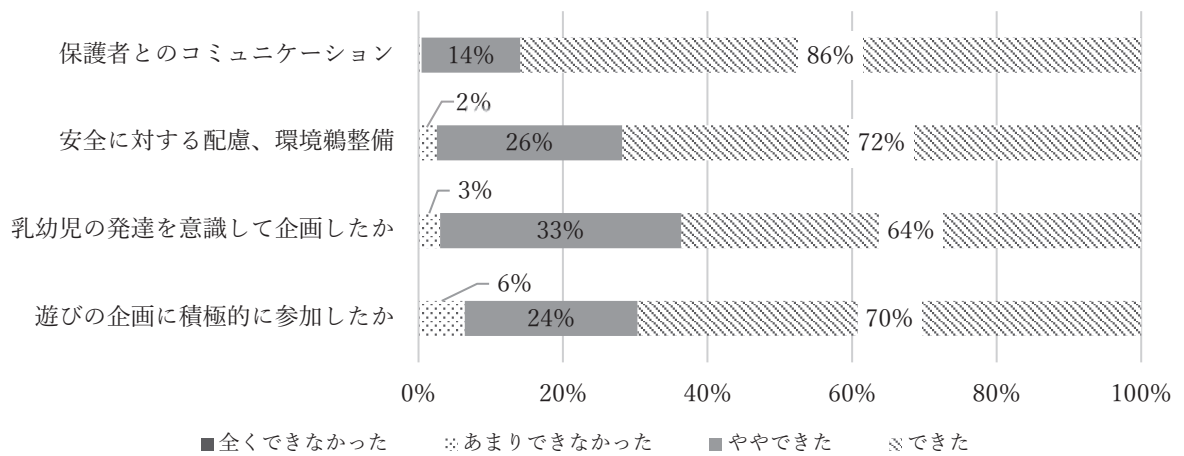
集計人数：195人+58人



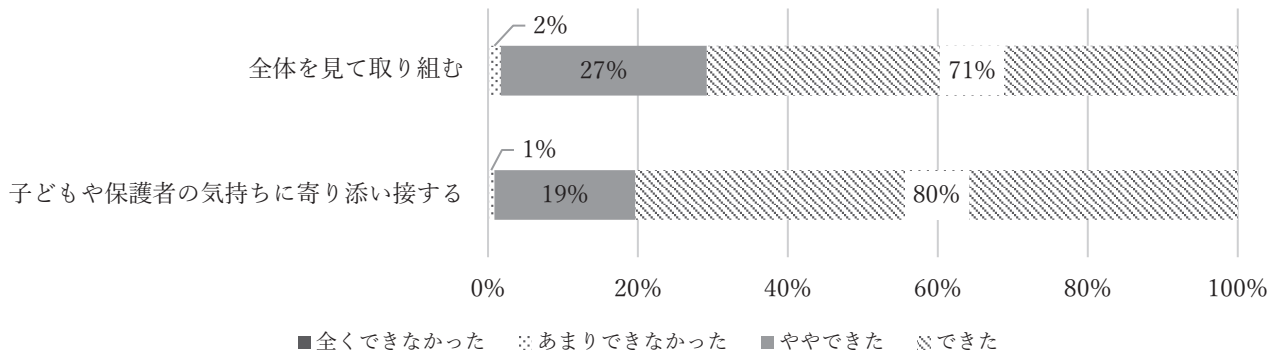
### 事業内容の理解



### 遊びの企画と実施



### 対応



## 7. 子ども心理相談

名古屋学芸大学子どもケアセンター子ども心理相談室は、2015年6月に開設された。子どもケアセンター（以下センターとする）に併設されており、0歳から就学前までの子どもとその保護者を対象とした相談室である。本年度の個別相談実績を報告する。

### 1. 子ども心理相談

#### (1) 体制

0歳から就学前までの子どもとその保護者を対象に、発達や育児などに関する相談を受ける。相談員は臨床心理士1名である。昨年度に引き続き、非常勤心理士が相談を担当した。相談枠は、水曜日の午前中（10時～12時）であった。ただし、相談員と相談者（保護者）の予定をその都度合わせながら相談を受け付けた。相談受付は、ホームページおよび電話による申し込みとセンターからの紹介で行った。基本的情報と主訴を聞き取った上で受理面接（初回面接）の予約をし、受理面接後に、継続相談の有無を含めた対応を検討した。受理面接は1回50分、継続面接は1回45分程度であった。

#### (2) 実績

##### ○相談件数

今年度の相談件数は延べ10件であった。今年度受理面接を行ったケースは8件、昨年度から継続して行ったケースが2件であった。

8件の相談対象児の年齢別・男女別件数は表1の通りである。相談対象児は、0歳児から5歳児で、1歳児・3歳児が1件、4歳児が1件、2歳児・5歳児が3件とばらつきがあった。昨年度から継続したケースは1歳男児と3歳男児であった。

面接には保護者と相談対象児が一緒に来談した場合と、保護者のみが来談した場合、相談対象児が保育園や幼稚園に通っているため保護者と相談対象児のきょうだいと一緒に来談したケースがあった。保護者は母親が来談した。

月別の来談者数（延べ数）は表2の通りである。年度初めより新規申し込みされることがあり、新規相談件数は昨年度と同程度であった。一方で、上半期は1回のみでの終結が多く、継続ケースも年度途中で中断となったことから、来談者延べ数は減少傾向であった。3月のみ新規来談が重なり、月別で見ると件数が増加した。

表1 年齢別・男女別新規相談件数

年齢	男児	女児	計(%)
0歳児	0	0	0 (0.0)
1歳児	1	0	1 (10.0)
2歳児	0	3	3 (30.0)
3歳児	1	0	1 (10.0)
4歳児	2	0	2 (20.0)
5歳児	2	1	3 (30.0)
計	6	4	10 (100.0)

表2 月別の来談者数(延べ数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	3	4	0	3	1	1	0	0	0	0	4	18

## ○主訴

相談申し込み時の主訴は表3の通りである。子育ての不安が4件、言葉が3件、感情・気持ちが2件、その他が1件であった。その他の内容としては、子どもの発達の遅れや問題行動に対してどのように関わればよいか、必要な支援が何か教えてほしい、というものだった。

子育ての仕方が我が子の発達の遅れや問題行動に影響を与えているのではないかという保護者自身の不安が語られるケースが多かった。我が子のためにできることは何かを考えて子育てしているものの、良い方向に変化しない我が子を見て疲弊していることが目立った。また、言葉の遅れを心配しているケースも多く見られた。

表3 申し込み時主訴

内容	人数
言葉	3
運動・動き	0
感情・気持ち	2
対人関係	0
集団生活・友達関係	0
日常生活習慣	0
子育ての不安	4
その他	1
計	10

## ○相談形態・内容

相談形態は、相談対象児やきょうだいが来談した場合には親子同室とした。来談経路は表4の通りである。センターの事業などで知ったケースが6件と最も多く、ホームページで知ったケースが2件、市の広報などを見たケース、友人・知人から聞いたケースがそれぞれ1件であった。

センターの事業に参加している保護者の中には、子育てに不安を抱えている方も多く、心理相談室の紹介をすることでつながったケースが昨年度と同様に見られた。センター内で心理相談室の紹介をすることで安心して相談できる環境を提供することができたと考えられる。また、広報活動として、昨年度と同様にチラシを相談者が自由に手に取れるように設置した。実際にチラシを見て相談につながったケースもあることから、今後もセンター内外での広報を続けていきたい。

表4 来談経路

内容	人数
センターの事業などで知った	6
市の広報などを見た	1
他の施設から勧められた	0
友人・知人から聞いた	1
ホームページで知った	2
その他	0
計	10

## ○方針

来談した10件の今後の方針を表5に示した。子どもの特徴理解や今後の見通しを伝えることを通して保護者の不安を受け止めることで気持ちが落ち着き、1回で終結するケースが多かった。発達のフォローが必要と思われる場合には、関係機関の紹介や、探し方について案内をした。子どもが遊べる場や保護者同士がつながれる場としては、当センターの事業を伝えた。

継続来談のケースは、発達の遅れや発達特性の影響によって、子どもの問題行動がすぐには解決せず、保護者が関わり方を深く悩むケースと、保護者自身が対応に迷うものの周りに相談できる人がいないケースであった。子どもの様子について経過観察しながら関わり方についてのフォローを行い、適宜他機関の利用を含めて必要な支援

表5 今後の方針

継続	2
終結	0
1回のみ	6
中断	2
電話のみ	0
計	10

について検討している。また、中断しているケースは、保護者自身の課題が影響して子育てに疲弊し深く悩むケースと、他の機関での相談も検討しているケースであった。前者のケースでは子どもの問題と保護者の問題を整理し、それぞれに必要な対応を検討することで、保護者をサポートしていた。保護者の都合で中断となったが、来談当初より落ち着いてきた部分もあったため、相談再開を希望する場合に再度ご連絡をいただくこととした。後者のケースでは、現状から考えられる見通しを伝えた上で、再度当相談室での継続を希望される場合には、ご連絡いただくこととした。

## 8. 学生の子どもケアセンターの活用

### 1. ボランティア活動

#### (1) 趣旨

子どもケアセンターで行う子育て支援事業に学生が積極的に関わることにより、理論と実践を統合させる機会とする。

また、体験を通し、『子どもと触れ合う心構えを学ぶ』『子どもに安心・安全な環境づくりを学ぶ』『子どもの心に寄り添う術を学ぶ』『保護者の思いに触れ、子育て支援の大切さや子育て相談のありようを学ぶ』などの機会とする。

#### (2) 実施概要

～授業の空き時間を使った主体的な取組～

項目	概要
親子との触れ合い体験	自由あそびにおいて、親子との触れ合いを経験したり、親子との関わりを見聞きしたりすることにより、子どもの理解を深めたり、保護者との関わり方を学んだり、子育てへの思いなどを理解したりするもの。
託児の補助	親子のひろば・親力アップセミナーの参加者の子どもを、保護者が講座を受けている間、保護者とは別室で保育者と共に託児をするもの。
年齢別イベントの補助	年齢別イベントの事業に、補助という位置付けで参加し、環境を整えたり、親子の対応をしたり、安全確保をしたりするもの。

※ねらい、具体的学び、手順は別表①参照

#### (3) 実績

親子との触れ合い体験		託児の補助		年齢別イベントの補助	
28回	179人	23回	143人	6回	19人

#### (4) 成果

- ・直接、親子に関わることにより、子どもの具体的な姿（重さ、声の大きさ、コミュニケーション能力、全身の動きや手指の操作など）から、子どもの発達の経過を理解できた。また保護者の言葉掛けの仕方などから子どもに関わる際のヒントを得ることができた。
- ・授業で学んだことを、目の前の親子と照らし合わせることにより、理解を深めたり、再確認をしたりすることができている。さらに、授業で学んだことを踏まえ、自分なりにねらいや目標をもって親子に関わり、振り返りをするすることで次へのステップアップにつながっている。
- ・他の学生と一緒に参加することにより、親子への様々な対応の仕方を見聞きすることで、自分自身の保育の視野を広げる機会となっている。

#### (5) 学生の振り返りシートより

##### ①子どもと触れ合って勉強になったこと・関心をもったこと

- ・乳児の縦抱き抱っこの仕方について勉強になった。ぐっと腰の骨に乗せるイメージでし

っかり引き寄せて支えることで安定して乳児を支えられると分かった。泣き続けている子どもとどのようにして関わるべきか、保育者との関わりを見て学んだ。抱っこでいろいろなところに行き、ぬいぐるみや音の鳴るもの、絵本、掲示物など、その子どもの意識が向くものがどれなのか、子どもの様子をよく見ながら気持ちが落ち着くようにすることが重要だと分かった。(2年)

- ・じっとこちらを見つめていた子どもたちは、最初はすぐに逃げてしまったが、しばらくするとおもちゃを持ってきてくれるようになった。どのタイミングで心を開いてくれたのか、そして「なんとなく気になるけれど恥ずかしい」という気持ちが初めは勝っていたのかもしれないと、子どもの心の動きに興味をもった。また、子どもたちはおもちゃを次々と変えながら遊び、興味に移り変わっていく様子も印象的だった。子どもたちは、さまざまな刺激に反応しながら、自分なりの関わり方を探っているのだと感じた。(1年)
- ・最初はほとんどの子が泣いていたが、早めに泣き止んで遊ぶ子や環境に慣れなくてずっと泣いている子もいた。自分が担当した子は、抱っこしながらプレイルームを出て、気分転換にお散歩をしたらすぐに泣き止んだ。子どもひとりひとりによって対応が違ったので、とても勉強になった。(1年)
- ・子どもの興味関心の対象が玩具だけでなく、周りの環境にある壁面や天井から吊るされている飾り、空調のプロペラ、保育者や他の子どもの遊んでいる様子なども含まれるということを実感した。(1年)
- ・子どもと触れ合う中で、いきなり近づき過ぎると驚いて身構える姿が見られることに気づいた。まずは安心できる距離を保ちながら、遊びを通して自然に心を開いてもらうことが大切だと感じた。関わりのかきかけを急がず、子どものペースに寄り添う姿勢が信頼関係につながると学んだ。(3年)

## ②親子の様子を見て学んだこと・関心をもったこと

- ・子どもが何を伝えようとしているのか、何をしているのかが最初は分からなかったが、保護者が何度か教えてくださった。私には分からなくても、保護者には伝わっていることが不思議で、凄いと感じた。また、一生懸命保護者に話しかけている子がおり、日頃から沢山親子でコミュニケーションを取ることでお話したい、伝えたいという気持ちが育まれると思った。(3年)
- ・子どもの些細な言葉を聞き取り、理解している保護者を見て、普段から子どものことをしっかり見守って子どもと向き合い、理解していることが分かった。そのことが子どもにとって安心材料であることも、親子の様子を見て感じた。(2年)
- ・保護者に様子を伝える際は、楽しそうに遊んでいたなどと抽象的に説明するのではなく、詳しく伝えることが大事だと学んだ。また保護者の子どもに対する声の掛け方や抱っこの仕方などを参考にすることで、子どもが安心して過ごせる環境につながると感じた。(3年)
- ・泣かずに遊んでいた子どもがいて感心していたが、保護者が迎えに来た途端安心したの

か泣きそうになりながら保護者の所に走って行く姿を見た。やはり保護者の存在は偉大だと思った。(1年)

- ・どの保護者も子どもに温かく接しており、子どもの興味に関心をもって、子どもができるようになったことを喜び笑顔で接していた。中には子育てに不安を抱えている方もおり、保育者とのお話で安心した様子が見えたのが印象的で、どのような声かけをしたのか関心をもった。(3年)

### ③今後、学びを深めたいと思ったことや身に付けたいと思ったこと

- ・親子で遊んでいる時に間に入っていくタイミングや関わり方がまだ上手くできず、会話がぎこちなく子どもに信頼されづらい面が多かったので、保護者や子どもが関わりやすい対応や声の掛け方、姿勢などをもう少し見直して取り組みたいと思った。(1年)
- ・最初は全然泣き止まず、座って抱っこしても抜け出そうと拒否していて、戸惑った。保育者が一時的に変わってくださり「歩きながら抱っこして、たくさん話しかけるといいよ」と言って、少し落ち着いた子どもを引き継がせてもらった。泣いていてもたくさん話しかけることの重要さが改めてわかった。興味をもってもらえるものが見つかるよう、たくさん話しかける語彙力と話し続ける力を身につけたい。(1年)
- ・保育者が歌や手遊びを使って子どもが楽しめるようにしていたので、自分もレパトリーを増やしてその場やその環境に応じてすぐに展開できるようにしたい。(1年)
- ・子どもだけに目を向けるのではなく、保護者とのコミュニケーションも大切にしたいと思った。言葉遣いに気をつけながら、話題を出して親子で楽しめるような接し方が出来たらいいと考えた。(3年)
- ・保育者が保護者ひとりひとりに声をかけており、保護者は自分の子どものことや大人同士の話し合いを楽しんでいるように見えた。今までは子どもに対して深く関わるが多かったが、保護者との話し方についてもより学びを深めたいと思った。(3年)

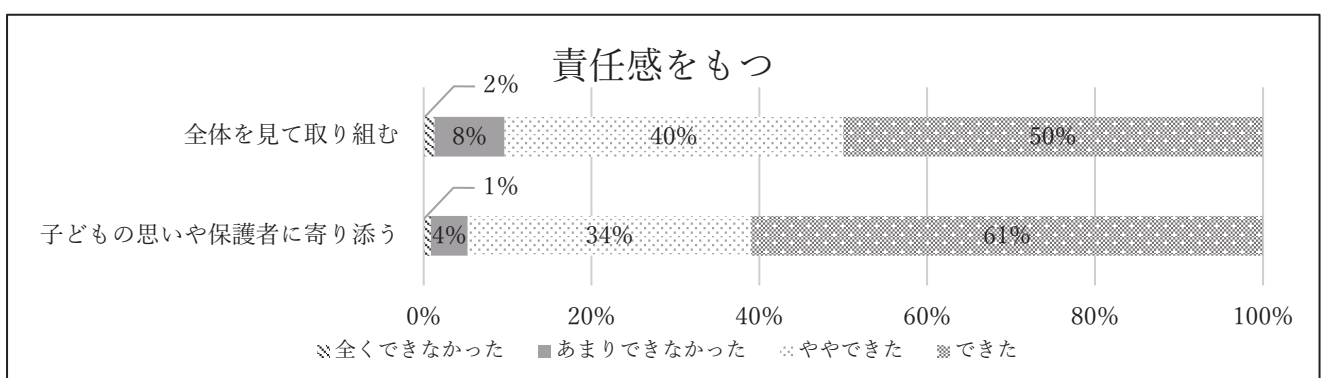
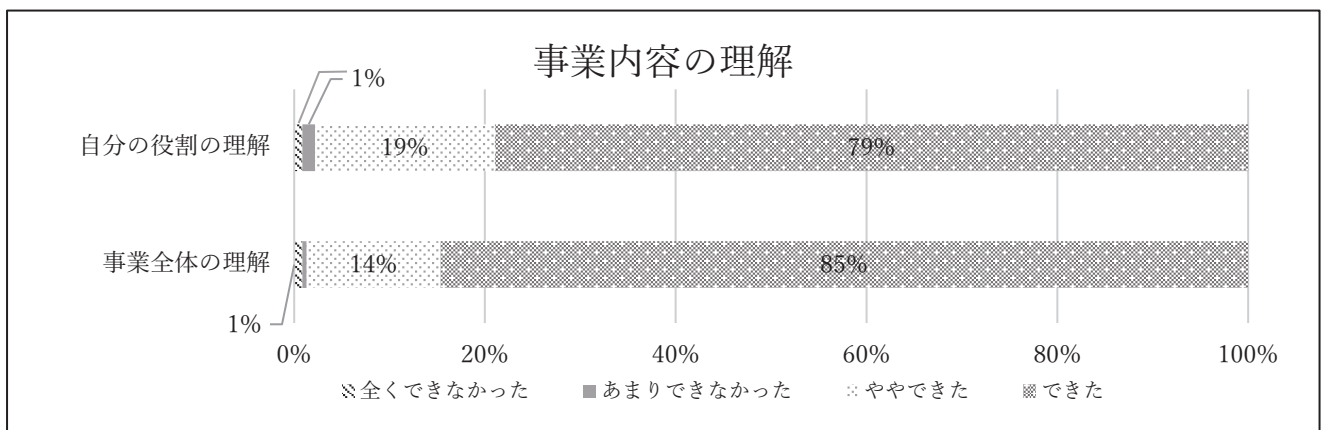
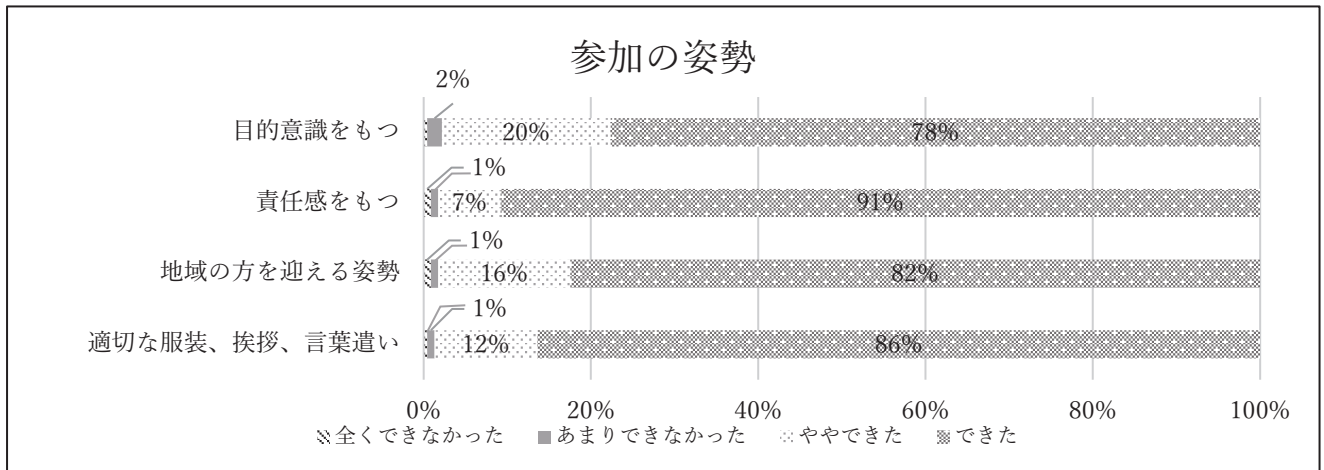
### ④その他(気付いたこと等)

- ・活発な子どもが多く、話しかけてくれることが多かった。私の手を引いて、こっちで遊ぼうと誘ってくれたことがすごく嬉しかった。初めてで少し不安だったが、可愛い笑顔を向けてくれたから安心した。(1年)
- ・教科書や授業で習った月齢による粗大運動や微細運動の発達を遊んでいる中で見ることができた。(2年)
- ・子どもケアセンターの保育者が、普段から衛生面・安全面への配慮だけでなく、子どもの興味関心が高まるような環境構成をしていることが分かった。寒天遊びの幅も広く、型抜きをしたりスプーンですくったりつぶしたり、手で冷たさや硬さなどの感覚を味わったり、他にもさまざまな楽しみ方があって子ども達もとても楽しんでいた。(2年)
- ・ひとりひとりの気持ちや発達の違いを受けとめながら、子ども同士の関わりを温かく見守り、必要な時にさりげなく援助できる力を身につけたいと思った。そのために、子どもの表情やしぐさから気持ちを読み取り、安心して自分を表せる環境づくりについても

学んでいきたい。(3年)

⑤本日参加してみて、保育者に質問、相談などはありますか？

- ・一緒に遊んでいる友達のことを叩いてしまった子どもがいる時、どのように対応すればいいのか教えていただきたい。(1年)
  - ・子どもがおもちゃに興味をもった時にどのような声かけをすると良いのか。また、未だにどのように関わりに入ればいいかがわからない時がある。(1年)
  - ・子どもが「ぶーぶー」と言っていて、車のおもちゃが欲しかったため、抱っこした状態で取りに行こうと体制を変えると泣いてしまう場合はどうすれば良いのか。(1年)
  - ・指差しをしてやりたいような顔をするが、動こうとしない時はその場で遊べば良いですか？(1年)
- ⇒質問があった学生を担当した保育者が、その日の様子を聞き取りながら具体的にお話させていただいた。



## 2025年度 学生の子どもケアセンターでのボランティア活動について

	ねらい・学生の学び	手順・時間帯等
親子との触れ合い	<p>ねらい：親子の様子を観察したり、一緒に遊んだりすることにより、子どもの理解を深めるとともに、保護者の声を直接聞き、子育ての思いなどを理解する。</p> <p>具体的学び：遊具や玩具の特徴や遊び方を子どもの姿を通して知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>：子どもに対する保護者の関わり方を見て、言葉掛けや対応の仕方を知る。</li> <li>：保護者の声に耳を傾け、保護者の思いや気持ちなどを知る。</li> </ul>	<p>事業：「自由あそび」</p> <p>申込み：前日までに記入</p> <p>時間帯：9時40分～11時10分</p> <p>持ち物：エプロン、名札</p> <p>参加条件：すべての学生</p>
託児の補助	<p>ねらい：子どもの理解を深めるとともに、子どもや保護者の対応、親子関係などについて学ぶ。</p> <p>具体的学び：各月齢、年齢の子どもの姿（身体状況、身体活動、手指操作、言語、表現、認識、社会性など）を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>：子どもの状況に応じた対応の仕方（遊びの対応、水分補給、睡眠への導入、おむつ替えなど）を知る。</li> <li>：親子関係（抱っこ時の仕方、泣いたときの対応、子どもの表情、親の表情、思いや気持ちの受け止め方など）を知る。</li> </ul>	<p>事業：「親子のひろば」「親力アップセミナー」</p> <p>申込み：事業日の3日前までに記入</p> <p>時間帯：9時40分～11時10分</p> <p>持ち物：エプロン、名札</p> <p>参加条件：「実習」または「親子との触れ合い」のどちらかを経験済みの学生</p>
年齢別イベントの補助	<p>ねらい：各年齢に応じた遊びの設定、環境（人的、物的）設定、安全への配慮、親子への対応の仕方などについて学ぶ。</p> <p>具体的学び：各年齢に見合った遊び、玩具や道具の数量や配置の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>：各年齢に相応しい場の広さ、距離などの物理的環境、季節や気候などの環境の活かし方を知る。</li> <li>：親子の関わり方を知る。</li> <li>：人的環境としての保育者のあり方を知る。</li> </ul>	<p>事業：「年齢別イベント」</p> <p>申込み：事業日の1週間までに記入</p> <p>時間帯：9時40分～11時10分</p> <p>事前打ち合わせ・反省会：学生の空き時間</p> <p>持ち物：エプロン、名札</p> <p>参加条件：すべての学生</p>

## 2. 授業における活動

### 『子どもケア基礎演習』

#### (1) 趣旨

『まずは子どもケアセンターを知ろう』という趣旨の体験型教育プログラムである。  
授業と連動した取り組みで、子どもケアセンターの施設を見学し、事業内容を理解する。

#### (2) 実施概要

- ①子どもケアセンターで実施している子育て支援事業の概要説明
- ②学生の子どもケアセンター活用の概要及び実施手順の説明
- ③プレイルームの見学

#### (3) 実績

対象：幼児保育専攻1年生  
受入れ回数：4回  
実施日：5/1・5/22・6/12・7/3

### 『保育職キャリアデザインⅠ』

#### (1) 趣旨

保育者として働くというイメージを具体化するために、子どもケアセンターでの実践を撮影したのち、乳児やその保護者と保育者の関わりを観察したり親子とのふれあいを体験したりして、『保育職を体感する第一歩』とする。

#### (2) 実施概要

- ①子どもケアセンターの見学や保育実践映像の視聴を通し、子どもや子どもと関わることについて理解する。
- ②子どもケアセンターでの『親子ふれあい体験』『保育者体験』を通し、保育者に対するイメージを具体化する。
- ③振り返りレポートの作成やグループディスカッションにより、『子ども』『保育者』に対する理解を深める。

#### (3) 実績

対象：幼児保育専攻1年生  
受入れ回数：自由あそび10回  
実施日：5/9・5/13・5/23・6/6・6/10・6/17・6/20・7/1・7/4・7/8

### 『保育・教職実践演習』

#### (1) 趣旨

学生が4年間の大学での学びを元に、小グループで指導計画を立案する。子どもケアセンター事業に参加する親子を対象に遊びの実践を行うことで、子どもとのやりとりのタイミングや間合いなどを身に付けるとともに、子育て支援に対する理解を深める。

#### (2) 実施概要

- ①日程調整及び当日の参加者の状況（子どもの年齢、参加組数など）を子どもケアセン

ターから伝達

②学生から遊びの素案の提出及び確認

③それぞれの事業（親子のひろば、自由あそび）のお楽しみタイムにて演習

(3) 実績

受入れ回数：6回

実施日：10/15・10/16・10/28・12/5・12/11・12/12

『子ども音楽療育概論』

(1) 趣旨

子ども、とくに障害児を対象とした音・音楽を用いた発達援助（療育）に関する基礎的な知識・技能を習得することを目標とする。保育者・教育者としてのスキルに、付加価値をつけられるようにすることを目指す。

(2) 実施概要

子ども音楽療育の意義や背景といったものを学ぶことから始め、関心を高める。その上で、音楽療育の基礎的な理論や実践について具体的に学ぶことで、受講生自身の経験と結びつけて考えられるよう理解を深めていく。音楽の特性上、座学だけでなく演習も織り交ぜながら、体験的な学びの場を提供する。

(3) 実績

受け入れ回数：1回

実施日：1/15（年齢別イベント）

3. 成果

子どもケアセンターの子育て支援のあり方や学生のセンターの活用方法などを理解したのちに、プレイルームを見学したり実際に親子と関わったりした。学生たちは、おもちゃを手にとったり、保育者に質問したりして、子育て支援施設としての工夫などを体験的に学ぶことができた。このような学習を経て、学生たちは子どもケアセンターや参加親子に、より興味や親しみをもつようになる。実際に、プレイルームをのぞき込んだり、参加親子にアプローチしたりする姿が見られた。また『触れ合い体験』を経て『年齢別イベントの補助』『託児の補助』へと、積極的に親子と深く関わる活動に参加するようになる。

## 9. その他

### 1. 子ケア通信の発行

#### (1) 趣旨

- ・大学のもつ専門性を活かした子育て情報の発信のひとつとする。
- ・子どもケアセンターの事業の実施状況を広く、地域の子育て家庭、大学の教職員及び学生に発信していく。
- ・子育て家庭、大学の教職員、学生が、子どもケアセンターを媒体にして相互に積極的に関わる機会とする。

#### (2) 発行

2025 年秋号－令和 7 年 9 月      2026 年春号－令和 8 年 3 月

#### (3) 内容 ※別紙参照



# 子ケア通信

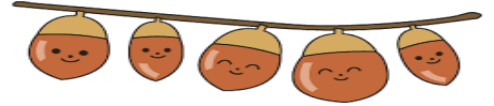
2025 秋

発行：令和7年9月  
発行者：名古屋学芸大学  
ヒューマン学部付属  
子どもケアセンター

## ～ 子どもケアセンターとは ～

地域の子育て中の親子、名古屋学芸大学の学生・教職員など、多彩な立場の人が、互いに集い、互いに育ち合える子育て支援の場です。

日進市の子育て支援センター事業の委託を受け、4歳未満のお子さんと保護者の方とが集える場・子育ての情報交換の場として「親子のひろば」「年齢別イベント」「自由あそび」「遊びの交流会」、保護者の方の子育て力を支える「親力アップセミナー」を開催しています。その他、「自主的な子育てサークルを支える事業」「子どもの発達上の心配や不安に対応する心理相談」も実施しています。



## 赤ちゃんの“魅力”と“能力”

自分は本学に着任して3年目になりますが、子どもケアセンターの前を通るたびにとてもかわいらしい赤ちゃんたちに癒しをもらい、そのおかげで日々の仕事を続けられています。赤ちゃんの様子を見てみると、本当に多くの“コミュニケーション”をしていることに驚きます。赤ちゃんは英語でinfant（インファント）と言われますが、この語源は“否定”を表すin-と“話す”を意味するfantからきており、つまりinfantとは「話さない者」という意味になります。しかし、近年の発達心理学の知見から赤ちゃんにはとても多くの能力が備わっていることが分かってきました。赤ちゃんは身の周りの人のことをよく見て、その人の表情や行動をマネしようとしします。“猿マネ”という言葉がありますが、実は猿はマネが得意ではありません。マネをするというのはただ相手の動作を模倣すればいいのではなく、相手の意図を推測し、それを自分の体の同じ場所で表現をするという高度な力が求められるのです。このように、身の周りの人とのコミュニケーションを通してたくさんのことを学習することができるのが、赤ちゃんの1番の能力なのかもしれませんね！



講師：中島 卓裕

## ～職員紹介～

センター長	加古 有子	センター次長	岡田 暁子	事務職員	成田 尚子
臨床心理士	茂苅 梓				
保育士	高崎 あゆみ	小山 和佳奈	藤田 真以		
	菅澤 晃子	楠井 有希	門 あかね		



## 年齢別イベント

### 「春のさんぽ」 4月11日



春のぽかぽか陽気の中、親子で大学構内へ散歩にでかけました。青々とした芝生の丘を上ったり、ふかふかなコケを踏みしめたりと、春の自然を体全体で味わいました。こいのぼりのうろこシールを集める“こいのぼりラリー”では、子どもたちそれぞれの感性が垣間見え、色とりどりのこいのぼりを泳がせながら、広場を駆け回っていました。

～参加者の感想～

- 子どもが初めて行く場所にワクワクしていました。
- 散歩の途中で休憩や次に進む仕掛けを用意してもらっていたので、子どもも楽しく歩くことができました！
- こいのぼりを作って持つのが嬉しかったみたいです。



### 「1歳のお友だち集まれ」 6月25日



前半はNUASホールに滑り台やゆらゆらトンネル、ボールプールなど様々な遊具を設置し、親子でたくさん体を動かしました。初めて入る広い空間に少し緊張していたお子さんも、目新しい遊具に興味をもち、自然と笑顔がこぼれ、あちこちから楽しそうな声が聞こえてきました。

後半はプレイルームに移動し「カエル」をテーマにしたお楽しみをしました。カエルの体操で体をほぐした後は、カエルのぶらぶら人形の登場にお子さんたちは釘付け！大型絵本『ぴょーん』の読み聞かせでは、一緒にジャンプ！最後は保護者の方と一緒に『かえるのうた』の輪唱で楽しく締めくくりました。

～参加者の感想～

- とにかく身体を動かすことが大好きなので、こんなにもたくさんの種類の遊びがあって楽しすぎました！マットにフラフープが通ってあってゆらゆら揺れるものは初めて見て、とてもおもしろいと思いました。こんなに広くてのびのびと遊べる場所があるのはありがたいです。
- 広いホールでのびのびと楽しそうに遊んでいる姿を見られて嬉しかったです。自由遊びだけでなく体操や読み聞かせもあって楽しめました！



## 親力アップセミナー

### 「シルクスクリーンプリントでオリジナルトートバッグをつくろう」 5月28日



お子さんを保育士に預けてメディア棟へ出発！メディア造形学部の島上先生に、皆さん初挑戦のシルクスクリーンプリントを教えてくださいました。様々なイラストの中から好きなものを選び、トートバッグにいざ印刷。メッシュ状の版にインクをのせ、ヘラで刷る一瞬に皆さん集中されていました。わずかな時間でしたが、少しだけ日常を離れて、講師の先生と一緒にものづくりの時間を楽しみました。

一方、お子さんたちは広いスペースで思い切り遊んだり、絵本を読んだり、楽しく過ごしていました。お母さんもお子さんも、それぞれの時間を満喫できたようです。

～参加者の感想～

- 子どもを安心して預けられて、ゆったり参加できました。
- 託児をしてもらいつつ、かわいいバッグを作れて楽しかったです。リフレッシュできました！
- シルクスクリーンプリントは経験したことがなかったので、とても面白かったです。



### 「親子でわくわく音楽体験～ふれあい遊びからクラシックまで～」 7月2日

昨年に引き続き、ヒューマンケア学部の岡田先生に音楽体験の講師をしていただきました。我が子とゆったり落ち着いて、優雅なピアノの音色にうっとり・・・そんな贅沢なひと時から始まった親力アップセミナー。



グランドピアノの中をのぞいたり、“はらぺこあおむし”の演奏を聞いたり、親子でふれあい遊びを楽しんだりしました。中でも人気だったのは、いろいろな楽器に触れられるコーナー！普段見ることのできない楽器に、子どもたちは興味津々。音楽の楽しさを存分に味わえた時間となりました。

～参加者の感想～

- 私自身も初めて見る楽器があり、驚きと発見の連続でした。
- 自由に動き回っても良い音楽会、とてもリラックスして参加できました。素敵な演奏、温かい保育士さんの声掛け、参加してよかったです。



# 親子のひろば



いす組(0歳児)・あひる組(1歳児)



同じ年齢の子をもつ保護者同士で、子育てについて話したり、ゲームやおもちゃ作りでリフレッシュをしたりする全5回の連続講座です。

1回目	子どもケアセンターに慣れよう
2回目	自己紹介ゲームをしよう
3回目	子育てについて話してみよう
4回目	センサリーボトルを作ろう ほっと一息ティータイム
5回目	サークルを立ち上げよう



1回目は皆さんの事を知ってもらう為、親子の自己紹介と自由あそびを行いました。どんなクラスになるかワクワクです！

2回目はお題が書かれた自己紹介カードを使って保護者の方同士の自己紹介タイムです。「最近買って良かったものは？」「おすすめのスーパーは？」など、情報交換にもなり盛り上がりました。

3回目は子育てについての悩みや聞いてみたい事を共有しました。寝かしつけの事や離乳食の事など、子育ての話はどれだけ時間があっても足りないですね。

4回目はセンサリーボトル作りを行いました。没頭して何かを作るという、家ではつくりえない貴重な時間だと毎回大好評です。その後は好きな飲み物をお供に、持参したお菓子を囲んで楽しい談笑タイムです！

5回目は4つのサークルが誕生です！今後はサークル仲間としての活動が始まります。

～参加者の感想～

- ・毎回楽しくあっという間でした。素敵な方々と出会えて充実した時間を過ごす事ができました。親と離れて先生方やお友達と過ごす時間は子どもにとっても良い経験になりました。
- ・同じ年齢の子ども、第二子以降という同じ境遇で集まれる事はなかなかないのでとても良かったです。
- ・施設がとてもきれいで、保育士や学生の方々が温かく迎えてくださりとても安心して気持ちよく過ごさせて頂きました。
- ・参加される親子とのコミュニケーションが取りやすい環境になっていたのがとても良かったです。なんでも話して良いですよ～だと困ってしまう場も、テーマがあったりおもちゃ作りがあったり、配慮が嬉しかったです。
- ・保育園へ行く前のシミュレーションが出来て良かったです。



❖お問い合わせ先❖

TEL 0561-75-2225

URL <https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

様々な事業の開催日程はホームページよりご覧ください



Instagramも  
チェックしてね♪



@KODOMOCARECENTER



# 子ケア通信

2026 春

発行：令和8年3月  
発行者：名古屋学芸大学  
ヒューマンケア学部附属  
子どもケアセンター

## ～ 子どもケアセンターとは ～

地域の子育て中の親子、名古屋学芸大学の学生・教職員など、多彩な立場の人が、互いに集い、互いに育ち合える子育て支援の場です。

日進市の子育て支援センター事業の委託を受け、4歳未満のお子さんと保護者の方とが集える場・子育ての情報交換の場として『親子のひろば』『年齢別イベント』『遊びの交流会』『自由あそび』、保護者の方の子育て力を支える『親力アップセミナー』を開催しています。その他、『自主的な子育てサークルを支える事業』『子どもの発達上の心配や不安に対応する心理相談』も実施しています。

## 2025年度 後期事業の紹介



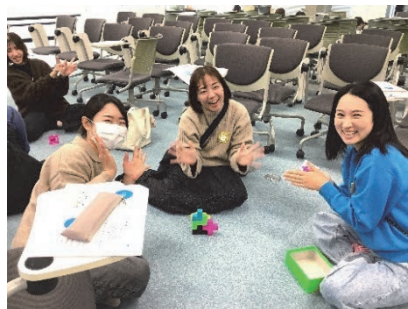
### 親力アップセミナー

#### 世界を広げる赤ちゃんのコミュニケーション ～発達心理学から見てきた赤ちゃんの“能力”～ ヒューマンケア学部 中島卓裕先生 11月27日

発達心理学の観点から、赤ちゃんとのコミュニケーションの方法を学ぶ講座を実施しました。『興味のある方はどなたでも参加可能』とし、現在子どもを育てている方だけではなく妊娠中の方や祖父母など広範囲の方を対象に行いました。前半は、資料と解説をもとに、赤ちゃんが成長していくにつれてどのような能力をもつのかを学び、理解を深めました。後半のワークショップではジェスチャーゲームを行いました。相手に伝える難しさを感じながらも、伝わった時にはみなさん両手を挙げて喜んでいました。ゲームを通して「子どものもどかしさを少しでも体験できて良かった」と話される方が多かったです。

～参加者の感想～

- ・子どもの発達の段階を知ることができて、どのような関わりをするとよいのかを考えることができました。また、ゲームを通してコミュニケーションの大切さや難しさを知り、改めて我が子との関わりも大切にしようと思えることができました。
- ・保育者の方と学生さんに別室で託児をしてもらい、落ち着いて講座を受けられました。今回の講座は、新鮮な気持ちで聞くことができました。
- ・子どもに声をかけたり、コミュニケーションを積極的に取ったりしようと思いました。





## 年齢別イベント



### 「0歳のお友だち 集まれ」 9月3日

今年は3か月から1歳前までのお子さんが集まり、ねんねやお座り、ハイハイなど3つのエリアに分けて、それぞれの発達に合わせた玩具や遊具、手作りおもちゃで自由に遊びました。一番人気はマットの滑り台！ハイハイで上手に上り下りし全身を使った遊びを楽しんでいました。月齢ごとのグループ交流では保護者同士が同じ悩みを共有し、楽しそうにお話される姿がみられました。



～参加者の感想～

- ・体を動かせる遊具があって良かったです。
- ・上の子が居るとなかなか下の子と触れ合う時間がないので、とても楽しかったです。

### 「秋のさんぽ」 11月19日



ぽかぽか陽気の秋の一日に、学内をお散歩しました。学生も知らない(?! ) 秘密の道、木の葉や木の実がたくさん落ちて、ザクザク、パキパキと鳴る道、見上げると赤・茶の葉が陽光に照らされて紅葉が楽しめる道…親子で次はどんな道かとワクワクしながら、秋の恵みをたくさん見つけて楽しみました。

～参加者の感想～

- ・普段なかなか散歩することがなく良い機会でした。
- ・お散歩をしながら様々なスポットが回れて、楽しみ方が豊富で楽しかったです。

### 「クリスマス会」 12月18日

今回初となる学生によるベル演奏を聴いたり、サンタとブーツの製作や塗り絵を楽しんだりしました。その後、サンタとトナカイ、雪だるまが登場しパラバルーンで遊びました。最後はサンタからプレゼントされたベルを使い親子でダンス！盛りだくさんの内容でクリスマスの雰囲気を楽しみました。



～参加者の感想～

- ・楽しい工作や音楽、サンタとの写真撮影が良かったです。
- ・子ども達が無理なく楽しめる内容で、クリスマスの雰囲気を楽しめて良かったです。

### 「節分ごっこ」 1月28日



『鬼が怖い・・・』そんな子どもたちの気持ちを少しでも和らげるために、可愛くて楽しい節分ごっこを開催しました。子どもたちが声を上げて一番楽しんだのはもちろん豆まき！愉快的な演奏をしながら入ってくる個性あふれる鬼たちに向かって、勇気を出して豆をまき、追い払っていました。これで当日の節分もきっと大丈夫・・・なはず？！

～参加者の感想～

- ・節分が何かしっかりと理解できました。参加する前までは鬼が怖いと思っていたようでしたが、参加させてもらって怖くなくなったみたいです。



## 親子のひろば いす組(0歳児)・あひる組(1歳児)

同じ年齢の子をもつ保護者同士で、子育てについて話したり、ゲームやおもちゃ作りでリフレッシュしたりする連続講座です。

1回目	子どもケアセンターに慣れよう
2回目	自己紹介ゲームをしよう
3回目	子育てについて話してみよう
4回目	センサリーボトルを作ろう ほっとひといきティータイム
5回目	サークルを立ち上げよう



1回目は親子の自己紹介をし、その後自由に遊んでいただきました。どんなクラスになるかワクワクでした！

2回目からは託児が始まり、保護者の方とお子さんは別室で過ごしました。お互いを知っていくために、カードを使った自己紹介ゲームを行いました。

3回目は子育てについての悩みや聞きたい事を共有しました。寝かしつけや離乳食など、毎回時間が足りなくなる程盛り上がりました。

4回目は前半にセンサリーボトルを作り、後半は好きなお菓子を持ち寄ったのティータイムでした。作ったセンサリーボトルはお子様にはプレゼントしました。

5回目はサークル誕生の日でした。5回では足りなかったというお言葉をいただけるくらいあっという間の連続講座でしたが、今後はサークル仲間として交流を深めてほしいと思います。

～参加者の感想～

- 同じくらいの月齢の子どもを持つママ同士で子育ての悩みを共有でき、癒しの時間を過ごすことができました。
- 子どもを預けて親だけで話す場が他にはなく、親も子どもも良い経験ができたと思います。
- 今まで託児を利用する事がなかったので、子どもの反応がどのようになるか不安でしたが、学生さんや先生方に優しく遊んでもらえたようで安心して預ける事ができました。子どもが親から離れる練習も大切だと気付かされました。



## 秋の遊びの交流会

「キミもヒーローにならないか！～nuas に平和をとりもどそう～」 11月8日



「ヒーロー」というテーマのもと、学生たちが工夫を凝らした多彩な遊びを展開しました。

制作コーナーでは、オリジナルの変身アイテムを作って身にまとい、子どもたちの表情は一気にヒーローそのものに。続くアスレチックエリアでは、荒らされた町を救うべく、学生と一緒に力いっぱい怪獣に立ち向かう勇ましい姿が見られました。また、N カフェに設置された迷路の町では、頼まれた品物を電車（ト

ロッコ）に乗せて届ける「お買い物ミッション」に挑戦。学生による車掌の演技やリアルな装飾が、子どもたちのなりきる気持ちを一層引き立て、キラキラとした笑顔が溢れる時間となりました。

学生たちは、遊ぶだけでなく「感謝の言葉」を届けることを意識。遊びの終わりに贈られた「ありがとう」という言葉を通じて、子どもたちが人の役に立つことの心地よさを実感できる、温かな体験の場となりました。



## 春の遊びの交流会

「nuas EXPO 2026～世界のお祭りを楽しもう！～」 2月28日



今年度開催された大阪・関西万博を機に、「遊びを通して世界のお祭りを体験してほしい」という思いから『nuas EXPO』を開催しました。

アメリカのイースターハントでは、転がる卵をキャッチしたり、森の中で卵を一生懸命に探したり。卵を見つけた瞬間のキラキラした笑顔が印象的で、何度も繰り返し挑戦する姿が見られました。

スペインのトマティーナでは、広々としたNUASホールが真っ赤な会場に様変わり。「トマトのマント」を羽織ってトマトに見立てた球を的に向かって投げ、お祭りの熱気を全身で感じていました。

タイのランタンフェスティバルでは、子どもたちのこだわりが光る自分だけのランタンが完成。それを手に船に見立てたトロッコへ乗り込み、光が灯る部屋をゆっくり回る時間は、幻想的な空間を楽しむ特別なひとときとなりました。

フィナーレでは思い出を振り返る劇を鑑賞。最後は全員で『小さな世界』を踊り、子どもたちと学生が一つになって、笑顔あふれる締めくくりを迎えることができました。



※お問い合わせ先※

TEL 0561-75-2225

URL <https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

様々な事業の開催日程はホームページよりご覧ください



Instagramも  
チェックしてね♪



@KODOMOCARECENTER



## 2. 各事業のチラシ

### (1) 親力アップセミナー

**親力アップセミナー**

# シルクスクリーンプリントで オリジナルトートバッグを作ろう!

**講師：島上 祐樹**  
名古屋学芸大学 メディア造形学部 ファッション造形学科 准教授

**日時：5月28日(水)**  
9:50～11:30

**対象：2021,5,29～2024,11,28生まれの  
子どもとその保護者（お子さんは別室で  
保育士と学生が託児をさせていただきます）**

**定員：10組程度**



**シルクスクリーンとは…**  
メッシュ状の版にインクを通過させる孔を開けて  
印刷する孔版印刷の一種です。  
失敗が少なく、短時間で製版を行うことができます。

**申し込み 4月15日(火)～20日(日)**  
HPの申し込みフォームから   
※応募多数の場合、抽選となります。

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部付属  
子どもケアセンター  
0561-75-2225

～ふれあい遊びからクラシックまで～

親カアップセミナー

## 親子でわくわく音楽体験

7月2日(水)  
10:00～11:30

講師：岡田 暁子  
名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 教授

対象：1歳以上～4歳未満の  
子どもとその保護者  
(2021年7月3日～2024年7月2日生まれ)  
定員：10組程度

小夏のひと時、お子さんと一緒に  
ゆっくり生の音楽を聴きませんか？  
そして、一緒に楽器に触れたり、  
リズムにのったりしながら、  
音をおしたコミュニケーションの  
時間をたのしみませんか？



申し込み 5月27日(火)～6月1日(日)

HPの申し込みフォームから  
※応募多数の場合、抽選となります。



名古屋学芸大学ヒューマンケア学部付属  
子どもケアセンター  
0561-75-2225

## 親力アップセミナー

### ポディーワークと瞑想 ～ありのままを受け容れる～

講師：林 麗子  
名古屋学芸大学  
ヒューマンケア学部 准教授

日時： 9月30日（火）・10月1日（水）

\*どちらか一日だけの参加となります。申込みも一日のみでお願いします。

時間： 10:00～11:30（受付9:50～）

対象： 6ヶ月～4歳未満の子どもとその保護者  
（お子さんは別室で過ごします  
保育士と学生が託児をさせていただきます）

定員： 10組程度

#### ～内容～

ヨガや瞑想等を取り入れたポディーワーク。  
わずかな時間、お子さんと離れて…  
また日常の中から離れて…  
素のからだが感じていることに意識を向けながら  
身体を無理なく動かさしほぐしていきます。  
ご自身のありのままを受け容れる体験を共有しましょう。  
心身をリラックスさせた後、お子さんと再び出会います。

#### 申込み期間

8月26日（火）～8月31日（日）

※HPにてお申込みください。

応募多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。

HPIはここから確認！ →



名古屋学芸大学  
ヒューマンケア学部附属  
子どもケアセンター  
0561-75-2225  
<http://www.nuas.ac.jp/cc/>

# 世界を広げる赤ちゃんのコミュニケーション

～発達心理学から見てきた赤ちゃんの"能力"～

講師：中島 卓裕

名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 講師

日時：11月27日（木）

10：00～11：30（受付9：50～）

対象：興味のある方はどなたでも大丈夫です  
妊娠中の方もOK！

※託児の対象は2021.11.28～2025.5.27生まれのお子さんのみです  
対象のお子さんは別室で保育士と学生が託児をさせていただきます  
その他の年齢のお子さんについては同室で過ごしていただきます

定員：13組程度

これまで赤ちゃんは未熟で無力な存在だと考えられてきましたが、  
実は想像以上にいろいろなことを理解する力を身につけていることが  
発達心理学の研究から明らかになってきました。

かわいいだけじゃない？

意外としたたかな赤ちゃんの秘めた“能力”や“世界”について  
一緒にワクワク探検しましょう！

申込み 10月21日(火)～10月26日(日)

ホームページの申込みフォームから  
応募者多数の場合、抽選



名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属  
子どもケアセンター

0561-75-2225

<https://www.nuas.ac.jp/cc/>



**親子のひろば**

保育士や学生による  
**託児付き!**  
(2~4回目)

**4~6月**  
隔週 5回連続講座

**子育て仲間をつくろう!**

**募集期間: 3月4日(火)  
~3月9日(日)**

**人数: 各クラス8組程度 4クラス**  
りすクラス 2024.4.2~2024.9.30  
あひるクラス 2023.4.2~2024.4.1  
生まれのお子さんとその保護者

※日程や各クラスの詳細は  
HPを必ずご確認ください。

HPはこちら 

**内容**

- ・子どもケアセンターに慣れよう
- ・自己紹介カードを使って仲良くなろう
- ・子育てについて話してみよう
- ・センサリーボトルを作ろう
- ・サークルを立ち上げよう
- …他

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属 子どもケアセンター  
日進市岩崎町竹ノ山57 TEL 0561 - 75 - 2225

親子のひろば

子育て仲間をつくらう！

参加者募集



9～11月（隔週 5回連続講座）

保育士や学生による託児付き！（2～4回目）



1回目 子どもケアセンターに慣れよう

2回目



自己紹介ゲームをしよう

書かれているお題に沿って答えていきます。皆さんのお人柄が分かり、盛り上がること間違いなし！

3回目



子育てについて話してみよう

保護者の方のタイムリーな悩みを皆さんで話し合い、毎日の子育てのヒントにします。

4回目



センサリ-ボトル作り  
ほっとひとときティータイム

キラキラ素材に囲まれておもちゃ作りをしてみましよう！その後のお菓子パーティーも大好評！

5回目 サークルを立ち上げよう

人数：各クラス8組程度 3クラス  
りおクラス 2024.4.2～2025.4.1  
あひるクラス 2023.4.2～2024.4.1  
生まれのお子さんとその保護者

※日程や各クラスの詳細はHPを必ずご確認ください。

募集期間：7月22日(火)  
～7月27日(日)



@DOMOMO.CARECENT

Instagramに  
今までの様子も  
載っているよ！



名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部附属 子どもケアセンター  
日進市岩崎町竹ノ山57  
tel.0561-75-2225 (9:00～16:00)

HPはここから確認！ →

(3)年齢別イベント

# 令和7年度 年齢別イベント

## みんな集まれ!

子どもケアセンターで行われる  
年齢別のイベントを紹介します♪

### 2歳児

- 4月11日 春の散歩
- 7月17日 水遊び
- 11月中旬 秋の散歩
- 12月中旬 クリスマス会
- 1月下旬 節分遊び

### 0歳・1歳

- 6月25日 1歳のお友だち集まれ
- 7月16日 水遊び(1歳児)
- 9月3日 0歳のお友だち集まれ

※日程は変更になる場合があります。  
詳細は1ヶ月ほど前にHPでご確認ください。  
Instagramにも最新の情報や過去のイベントの様子を掲載しています♪

Instagramはこちら

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属 子どもケアセンター  
日進市岩崎町竹ノ山57 0561-75-2225

HPはこちら



# 親子で音楽をたのしもう！

「音楽療法」を学んでいる学生による音楽会！

## 日時&場所

2026年1月15日（木）

10：00～受付

10：15～活動開始

（11：30頃 終了予定）



名古屋学芸大学ヒューマンケア学部棟  
HB101（音楽室）にて

## 対象

4歳未満の親子  
10組



## 内容

音楽による触れ合いあそび  
楽器あそび  
音楽鑑賞など♪



## 申込期間・方法

11月11日（火）10：00  
から

11月16日（日）23：59  
子どもケアセンターHPにて

抽選発表 11月18日（火）



(4)遊びの交流会

遊びの交流会 名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター

だいぼしゅう  
／ヒーロー大募集！／

# キミもヒーローに ならないか！

へいわ  
～nuasに平和をとりもどそう～

2025年11月8日(土)  
10:00～12:30



Instagramも  
チェックしてね♪



場所：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部  
対象：年少から年長のお子さん  
申込方法：ホームページからの申込み  
申込期間：9月30日(火)～10月5日(日)

【その他】  
①きょうだいの参加、その他詳細はホームページをご覧ください。  
(下記QRコード有)  
②当選された方には後日ご案内を郵送します。  
③駐車場、大学バスを利用することができます。

 **NUAS**  
名古屋学芸大学

 **子どもケアセンター**  
愛知県日進市岩崎町1丁目57 千120-0136  
TEL.0561-75-2235 FAX.0561-75-2236  
<http://www.nuas.ac.jp/ccc/>



後援:日進市

世界のお祭りを楽しもう！

# nuas EXPO 2026

2026ねん2がつ28にちどようび  
10:00~12:30

遊びの交流会  
とは

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部の学生が企画・運営し、地域の子どもたちに楽しい遊びを提供するイベントです！



**アメリカ**  
「イースターハント」  
イースターエッグを  
みつけて  
かみさまにとどけよう！



**スペイン**  
「トマティーナ」  
トマトをとって、  
おまつりにいこう！



**タイ**  
「ランタンフェスティバル」  
じぶんだけのランタンを  
つくって  
おまつりにいこう！

**フィナーレ**  
「NUASワールドにしゅっぱつだ！」

場 所：名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部

対 象：3歳以上の未就学児

申込方法：ホームページからの申込み

申込期間：1月27日(火)~2月1日(日)

- ・ きょうだいの参加、その他詳細はホームページをご覧ください。
- ・ 当選された方には後日ご案内を郵送します。
- ・ 駐車場、大学バスを利用することができます。



**NUAS**  
名古屋学芸大学

子どもケアセンター

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57  
TEL 0561-75-2225 FAX 0561-75-2226  
<https://www.nuas.ac.jp/cccl/>



ホームページ

後援：日進市

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部  
附属子どもケアセンター年報 第11号

2026年3月31日発行

発行：名古屋学芸大学子どもケアセンター  
〒470-0196  
愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地  
TEL 0561-75-7111（代表）

印刷：株式会社コムラ  
〒501-2517  
岐阜県岐阜市三輪ぷりんとびあ3  
TEL 058-229-5858